

5 植物

植物の調査項目は表 5-1 に示すとおりである。調査地域は図 4-1 に示すとおり、自然的状況の調査範囲とし、平成 20 年度までの調査期間についてとりまとめた。

表 5-1 調査項目

	調査項目	
植物	種子植物・シダ植物	
	付着藻類	
	その他の植物	蘚苔類
		大型菌類

5.1 種子植物及びシダ植物

5.1.1 調査項目

(1) 植物相調査

植物相調査は、文献及び事業者の調査により実施した。

(2) 植生調査

植生調査は、文献及び事業者の調査により実施した。

(3) 重要な種の調査

重要な種の調査は、文献及び事業者の調査により実施した。重要な種にかかる事業者の調査は、植物相調査、植生調査並びに種子植物及びシダ植物の重要な種の調査である。

重要な種の選定結果は表 5.1-5 に示すとおりである。

5.1.2 調査方法

(1) 文献調査

1) 調査対象文献

調査対象文献は以下に示すとおりとした。

<植物相>

文献 1：福井県博物同好会会報(福井市立郷土自然科学博物館 昭和 30 年～40 年)

福井市立郷土自然科学博物館博物同好会会報(福井市立郷土自然科学博物館
昭和 42 年～50 年)

福井市自然史博物館研究報告(福井市自然史博物館 平成 4 年)

文献 2：池田町史(池田町史編纂委員会 昭和 52 年 3 月)

文献 3：足羽川流域の生物調査(福井県高等学校生物研究会 平成 10 年 3 月)

文献 4：福井県の生物(福井県教育研究会理科部会 昭和 41 年 6 月)

文献 5：福井県のすぐれた自然 植生編(福井県県民生活部自然保護課
平成 11 年 3 月)

文献 6：改訂増補 福井県植物誌(渡辺定路 平成 15 年 7 月)

文献 7：福井県の絶滅のおそれのある野生植物ー福井県レッドデータブック(植物編)ー
(福井県 平成 16 年 3 月)

文献 8：福井県立博物館紀要(福井県立博物館 平成 2 年 3 月、12 月)

<植生>

文献 1：池田町史(池田町史編纂委員会 昭和 52 年 3 月)

文献 2：第 2 回自然環境保全基礎調査(環境庁 昭和 57 年)

文献 3：美山町史(美山町史編さん委員会 昭和 59 年 9 月)

文献 4：第 3 回自然環境保全基礎調査(環境庁 昭和 59 年)

文献 5：植物群落レッドデータブック(財団法人 日本自然保護協会 平成 8 年 4 月)

文献 6：第 5 回自然環境保全基礎調査(環境庁 平成 11 年)

2) 調査地域

調査地域は、図 4-1 に示す地域の自然的状況の調査範囲とした。ただし、文献によっては市町村、地形、メッシュの単位で生育種が示されているものがあるため、調査範囲外の生育種が含まれている可能性がある。

(2) 事業者の調査

1) 相調査

① 調査方法

現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析によった。現地調査の手法、内容及び実施状況を表 5.1-1 に示す。

② 調査地域

調査地域は自然的状況の調査範囲とした。調査地点は、植物の生態の特性を踏まえ、生育種の生息環境を適切かつ効率的に把握できる地点及び経路とした。調査地域、調査地点及び調査経路を図 5.1-1 に示す。

③ 調査期間等

現地調査の調査期間、時期は表 5.1-1 に示すとおりであり、調査時期は、植物の生態の特性を踏まえ、さらに、花期や結実期等の確認の容易さ等を勘案し、設定した時期とした。

表 5.1-1 種子植物及びシダ植物相の現地調査の手法、内容及び実施状況

項目	内容						
調査すべき情報	種子植物・シダ植物(植物相)						
調査地域・調査地点	自然的状況の調査範囲(図 5.1-1 参照)						
現地調査の内容	1. 踏査 調査地域の環境を網羅的に把握できるように調査経路を設定した。設定した経路を踏査し、出現する生育種を記録し、植物相を把握した。						
調査期間・調査時期	調査年度	調査時期					現地調査手法
		早春季	春季	夏季	秋季	冬季	
	昭和63年度	—	—	8/1~6	10/9~12	—	植物相調査 1. 踏査
	平成元年度	4/22~26	—	8/10~12	—	—	植物相調査 1. 踏査
	平成3年度	—	—	—	10/2~4	—	植物相調査 1. 踏査
	平成4年度	4/28~30	5/1 6/17~20	—	9/2~5 11/18~20	—	植物相調査 1. 踏査
	平成8年度	4/30	5/7, 13, 16 5/19, 23, 31 6/15, 16 6/20	7/1, 13, 15 7/27 8/5, 12, 22	9/7, 12, 17 9/19, 24 10/3, 5, 10 10/17 11/3	—	植物相調査 1. 踏査
	平成9年度	4/21, 26	5/6, 12, 24 5/26 6/2, 16, 18 6/23, 30	7/5, 20 8/4, 30, 31	9/22, 27, 29 10/6, 10, 11 10/15, 20 11/8	—	植物相調査 1. 踏査
	平成10年度	4/14, 16, 20 4/28, 29	5/9, 18, 21 5/28 6/1, 11, 18 6/25	7/2, 16, 30 8/10, 20, 29	9/16~17 9/22, 24 10/5, 12	—	植物相調査 1. 踏査
	平成11年度	4/12, 17, 27	5/13	7/15, 21, 22 7/26 8/2, 5, 7, 8 8/12, 23	10/30	—	植物相調査 1. 踏査
	平成12年度	—	5/5 6/3~5 6/19, 22, 29	7/1, 3, 6 7/10, 21, 24 7/27, 30 8/21, 27	9/4, 14, 18 9/25 10/10	—	植物相調査 1. 踏査
	平成15年度	—	—	—	11/4~7	—	植物相調査 1. 踏査
	平成16年度	—	6/14~17	7/12~14	—	—	植物相調査 1. 踏査
	平成17年度	—	—	7/11, 12 8/12, 13 8/26~28	9/12, 13 10/24~26	—	植物相調査 1. 踏査
	平成18年度	—	5/25~28	—	—	—	植物相調査 1. 踏査
	平成19年度	—	—	—	9/1~6 9/24~29	—	植物相調査 1. 踏査
	平成20年度	4/21~25	—	—	—	—	植物相調査 1. 踏査

2) 植生調査

① 調査方法

現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析によった。現地調査の手法、内容及び実施状況を表 5.1-2 に示す。

② 調査地域

調査地域は自然的状況の調査範囲とした。調査地点は、植物の生態の特性を踏まえ、生育種の生息環境を適切かつ効率的に把握できる地点及び経路とした。調査地域、調査地点及び調査経路を図 5.1-2 に示す。

③ 調査期間等

現地調査の調査期間、時期は表 5.1-2 に示すとおりであり、調査時期は植物の生態の特性を踏まえ、さらに、確認の容易さ等を勘案し、設定した時期とした。

表 5.1-2 種子植物及びシダ植物の植生の現地調査の手法、内容及び実施状況

項目	内容					
調査すべき情報	種子植物・シダ植物(植生)					
調査地域・調査地点	自然的状況の調査範囲(図 5.1-2 参照)					
現地調査の内容	1. コドラート法 調査地域の代表的な植生にコドラートを設置し、コドラート内に生育する全ての構成種の被度・群度を記録した。 2. 踏査 空中写真の判読及び現地踏査によって現存植生図を作成した。					
調査期間・調査時期	調査年度	調査時期				現地調査手法
		春季	夏季	秋季	冬季	
	昭和63年度	—	8/1~6	—	—	植生分布調査・群落組成調査 1. コドラート法 2. 踏査
	平成4年度	6/17~20	—	9/2~5	—	植生分布調査・群落組成調査 1. コドラート法 2. 踏査
	平成12年度	5/5 6/3~5, 19 6/22, 29	7/1, 3, 6, 10 7/21, 24, 27 7/30 8/21, 27	9/4, 14, 18 9/25 10/10	—	植生分布調査・群落組成調査 1. コドラート法 2. 踏査
	平成13年度	5/14, 17, 21 6/4, 5, 9 6/13	7/2, 5, 7, 9 7/19~21 8/13	9/12, 16, 17 9/21, 25, 27 9/29, 30 10/3, 9, 12 10/27, 28 11/8, 12	—	植生分布調査・群落組成調査 1. コドラート法 2. 踏査
	平成14年度	—	—	9/12~11/30	—	植生分布調査・群落組成調査 1. コドラート法 2. 踏査
	平成17年度	—	—	9/12~14 9/26~28 10/24~26	—	植生分布調査・群落組成調査 1. コドラート法 2. 踏査
	平成18年度	—	—	10/22~26	—	植生分布調査・群落組成調査 1. コドラート法 2. 踏査

3) 重要な種の調査

① 調査方法

現地調査の情報により、分布、生育の状況及び生育環境の情報を整理、解析した。現地調査の基本的な手法は表 5.1-3 に示す現地調査の手法及び現地調査の内容とした。

② 調査地域

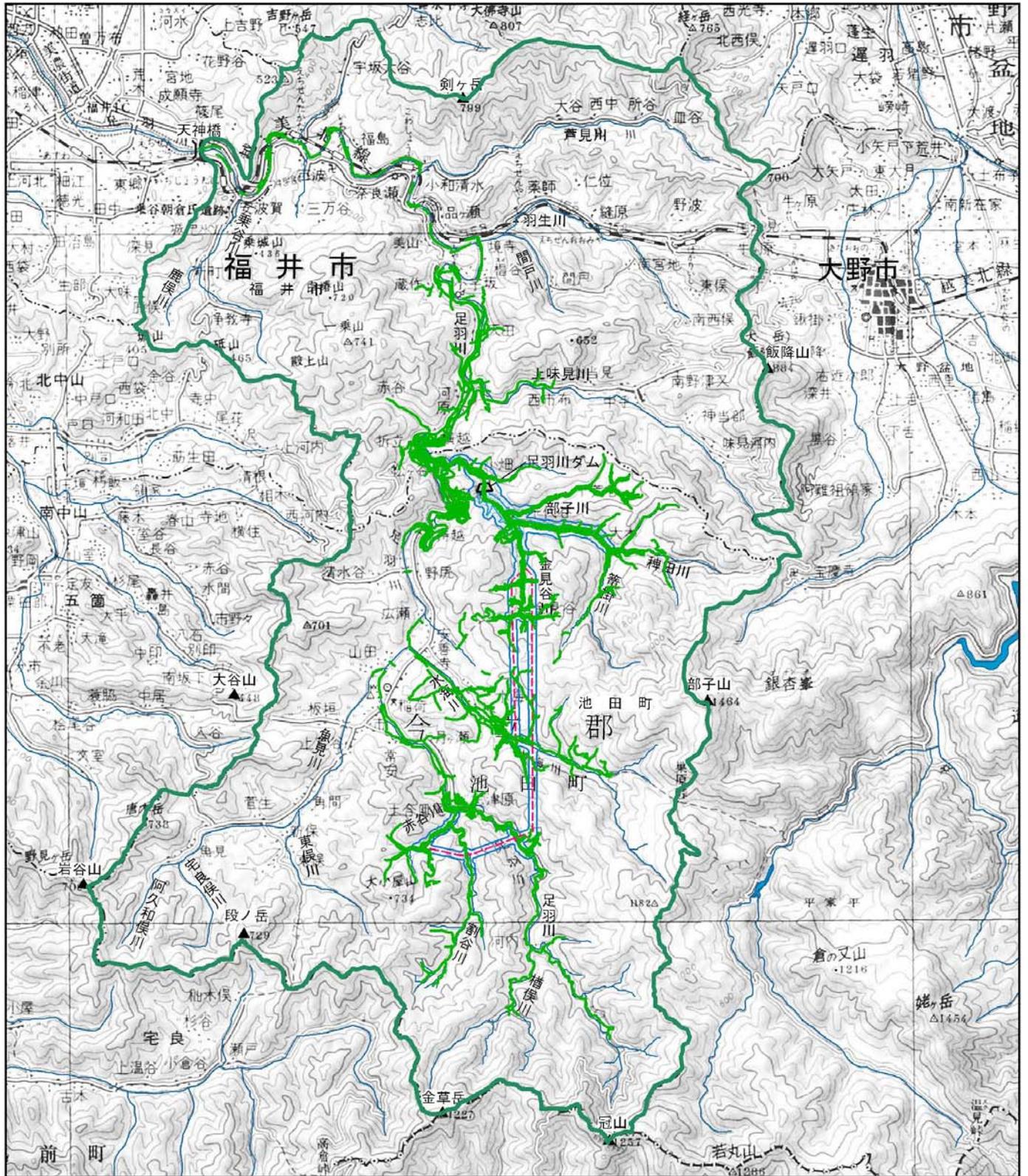
種子植物及びシダ植物の重要な種の調査地域は、自然的状況の調査範囲とした。調査地点は重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況を適切かつ効率的に把握できる調査地点及び経路とした。調査地域、調査地点及び調査経路を図 5.1-3 に示す。

③ 調査期間等

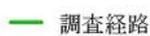
現地調査の調査期間、時期は表 5.1-3 に示すとおりであり、調査時期は重要な種の生態の特性を踏まえ、調査対象種の確認の容易さ等を勘案して設定した。

表 5.1-3 種子植物及びシダ植物の重要な種の現地調査の手法、内容及び実施状況

項目	内容						
調査すべき情報	種子植物・シダ植物の重要な種						
調査地域・調査地点	自然的状況の調査範囲(図 5.1-3 参照)						
現地調査の内容	1. 踏査 調査地域を踏査し、目視観察により重要な種の生育状況を確認した。重要な種を確認した場合には生育位置、生育環境の状況等を記録した。						
調査期間・調査時期	調査年度	調査時期					現地調査手法
		早春季	春季	夏季	秋季	冬季	
	平成4年度	4/28~30	5/1 6/17~20	—	9/2~5 11/18~20	—	重要な種調査 1. 踏査
	平成9年度	4/21, 26	5/6, 12, 24 5/26 6/2, 16, 18 6/23, 30	7/5, 20 8/4, 30, 31	9/22, 27 9/29 10/6, 10, 11 10/15, 20 11/8	—	重要な種調査 1. 踏査
	平成15年度	—	—	—	11/4~7	—	重要な種調査 1. 踏査
	平成16年度	—	6/14~17	7/12~14	—	—	重要な種調査 1. 踏査
	平成17年度	—	—	7/11, 12 8/12, 13 8/26~28	9/12, 13 10/24~26	—	重要な種調査 1. 踏査
	平成18年度	—	5/25~28	—	—	—	重要な種調査 1. 踏査
	平成19年度	—	6/4~9	7/25~28 8/30~31	10/8~13 11/5~10	—	重要な種調査 1. 踏査
	平成20年度	4/25	5/7~8	7/30~31	—	—	ミチノクナシを 対象とした調査 1. 踏査



凡 例

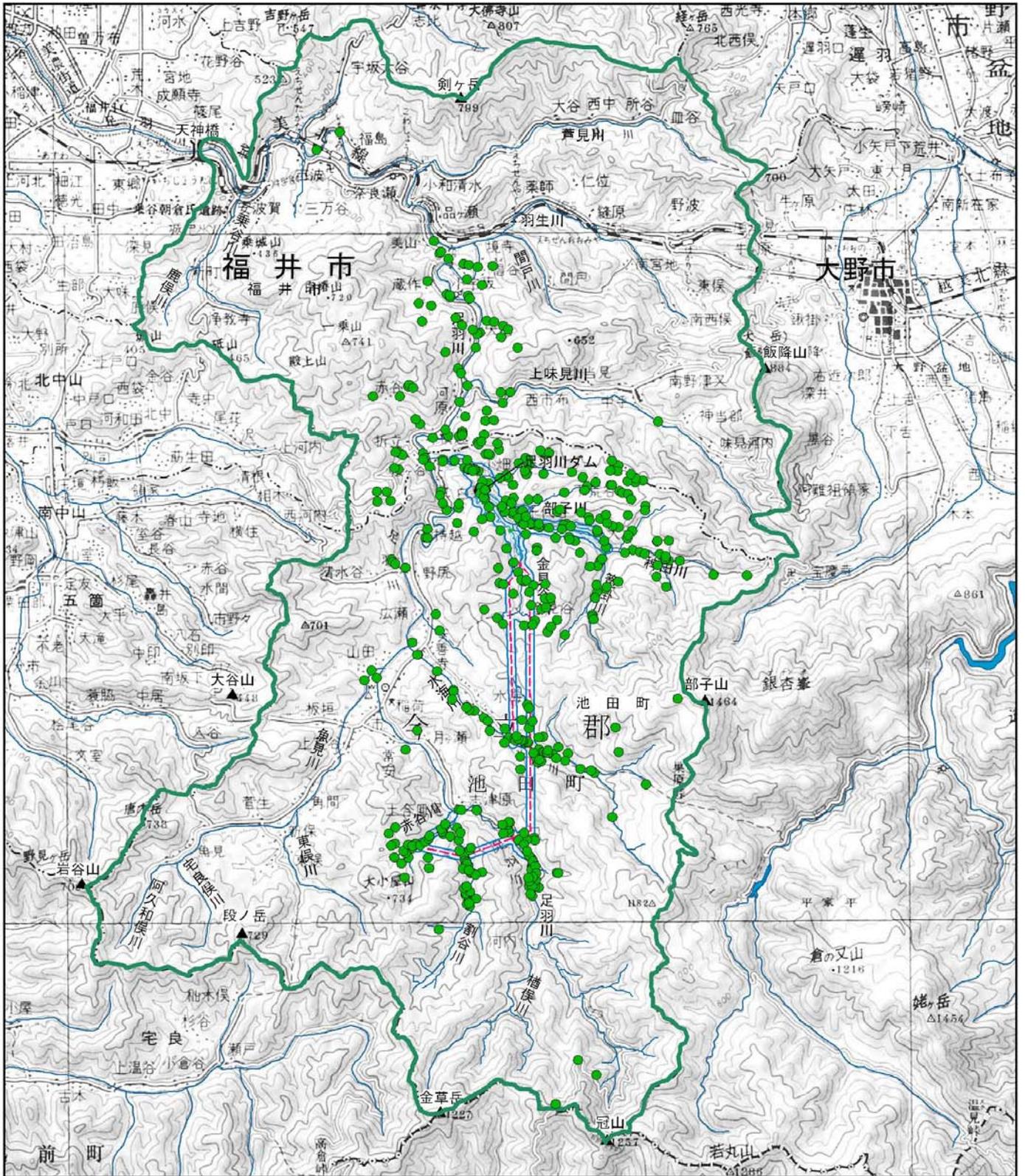
-  : ダム堤体
-  : ダム洪水調節地
-  : 導水施設予定地
-  : 対象事業実施区域
-  : 自然的状況の調査範囲
-  : 県界
-  : 市町村界
-  : 河川
-  : 調査経路



Scale 1 : 150,000



図 5.1-1
種子植物・シダ植物既往調査経路
(植物相調査)



凡 例

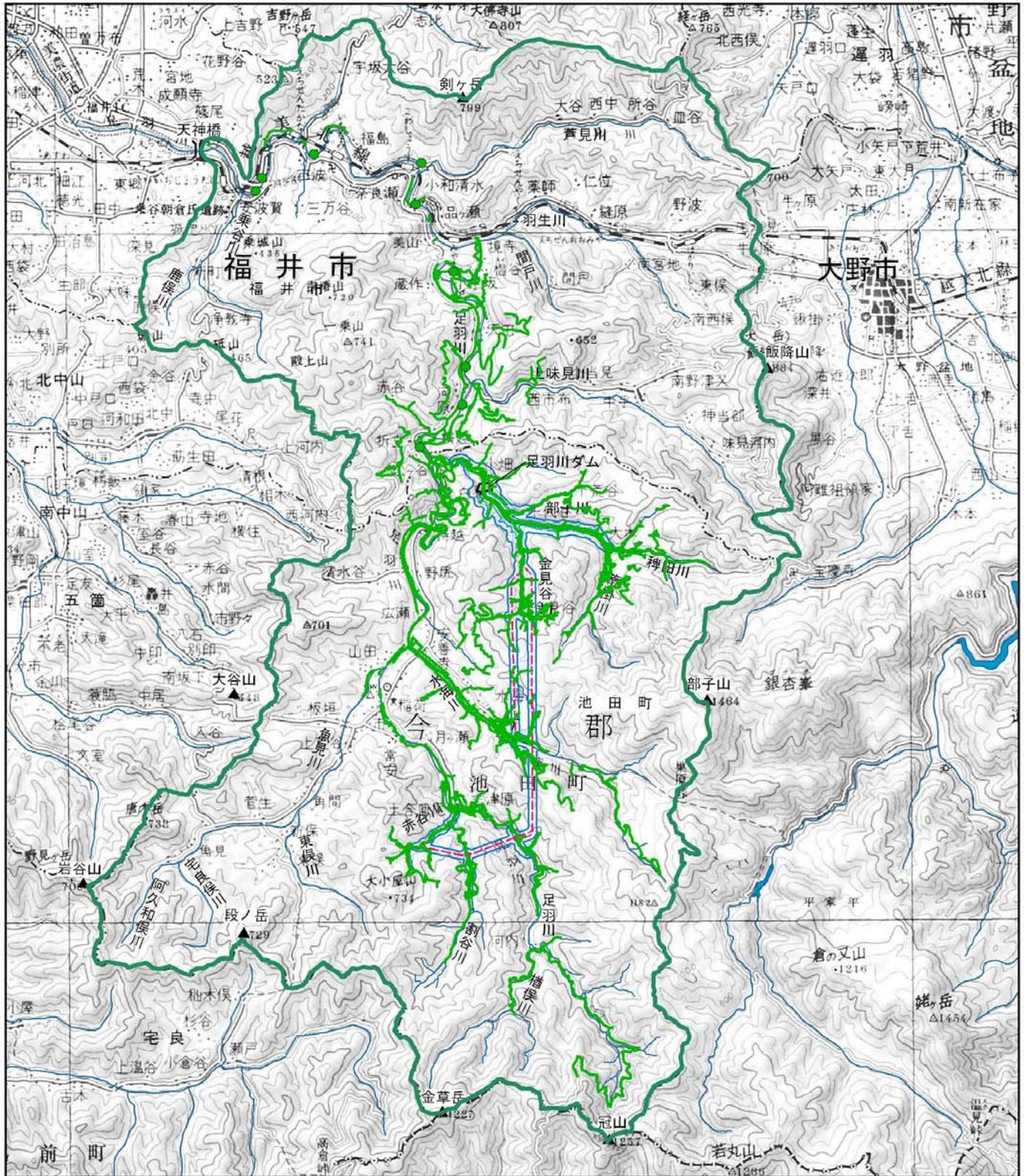
-  : ダム堤体
-  : ダム洪水調節地
-  : 導水施設予定地
-  : 対象事業実施区域
-  : 自然的状況の調査範囲
-  : 県界
-  : 市町村界
-  : 河川
-  : 調査地点



Scale 1 : 150,000

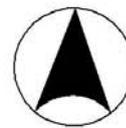


図 5.1-2
種子植物・シダ植物既往調査地点
(植生分布及び群落組成調査)



凡 例

-  : ダム堤体
-  : ダム洪水調節地
-  : 導水施設予定地
-  : 対象事業実施区域
-  : 自然的状況の調査範囲
-  : 県界
-  : 市町村界
-  : 河川
-  : 調査地点
-  : 調査経路



Scale 1 : 150,000

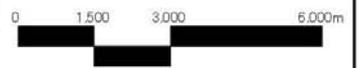


図 5.1-3
種子植物・シダ植物既往調査地
点及び調査経路
(重要な種の調査)

5.1.3 調査結果

種子植物・シダ植物の確認種リストを表 5.1-4 に、重要な種リストを表 5.1-5 に、重要な群落を表 5.1-6 に示す。また、図 5.1-4 に現存植生図を示す。

(出典)

- 文献1：福井県博物同好会会報(福井市立郷土自然科学博物館 昭和30年～40年)
福井市立郷土自然科学博物館博物同好会会報(福井市立郷土自然科学博物館 昭和42年～50年)
福井市自然史博物館研究報告(福井市自然史博物館 平成4年)
- 文献2：池田町史(池田町史編纂委員会 昭和52年3月)
- 文献3：足羽川流域の生物調査(福井県高等学校生物研究会 平成10年3月)
- 文献4：福井県の生物(福井県教育研究会理科部会 昭和41年6月)
- 文献5：福井県のすぐれた自然 植生編(福井県県民生活部自然保護課 平成11年3月)
- 文献6：改訂増補 福井県植物誌(渡辺定路 平成15年7月)
- 文献7：福井県の絶滅のおそれのある野生植物－福井県レッドデータブック(植物編)－(福井県 平成16年3月)
- 文献8：福井県立博物館紀要(福井県立博物館 平成2年3月、12月)

(分類体系)

- ・原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト[平成20年度版](水情報国土データ管理センター 河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)<http://www3.river.go.jp/system/seibutsuList.htm#>」に従ったが、同目録に記載のない種についてはその他の資料を用いて分類を行った。使用した目録を以下に示す。
 1. 「植物目録1987(環境庁 昭和63年3月)」
 2. 「改訂増補 福井県植物誌(渡辺定路 平成15年7月)」
 3. 「日本の野生植物(平凡社)草本Ⅰ(昭和57年1月)、草本Ⅱ(昭和57年3月)、草本Ⅲ(昭和56年10月)、木本Ⅰ～Ⅱ(平成元年2月)」
 4. 「日本タケ科植物図鑑(鈴木貞夫 平成8年1月)」
 5. 「日本淡水藻図鑑(廣瀬弘幸 昭和52年10月)」
- ・確認された種のうち、他の種と重複する可能性がある種は種数の合計から除いた。

(調査地域内外)

- ：調査地域内で確認
- ×：調査地域外のみで確認
- －：現地調査では未確認

(注)

- ・文献及び事業者の調査で確認されたイガホオズキの学名は、「Flora of Japan, Vol. IIIa (岩槻邦男、山崎敬、D. E. Boufford、大場秀章 平成5年9月)」に従い*Physaliastrum echinatum* としている。

表 5.1-5(1) 文献及び事業者の調査で確認された種子植物・シダ植物の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由				
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d	e
1	ヒカゲノカズラ科	ヒメスギラン	●					II類	
2		スギラン	●				II類	I類	
3	コバノイシカグマ科	フジシダ	●					I類	
4	オシダ科	ヌカイタチシダモドキ	●					注目	
5	メシダ科	デバコワラビ	●				準絶		
6		シマイヌワラビ	●				IB類	I類	
7	ウラボシ科	ホテイシダ	●					注目	
8		ミヤマノキシノブ	●					注目	
9	サンショウモ科	サンショウモ	●	●			準絶	II類	
10	アカウキクサ科	オオアカウキクサ	●	●			II類	I類	
11	ヒノキ科	ミヤマビャクシン	●					I類	
12	クワ科	カラハナソウ	●	●				準絶	○
13	タデ科	オオイタドリ	●	●					○
14		ノダイオウ	●	●			準絶	II類	
15	キンポウゲ科	アズマイチゲ		●				I類	
16		トウゴクサバノオ	●					II類	
17		ミスミソウ	●	●			準絶	II類	
18	ドクダミ科	ハンゲショウ	●					II類	
19	ウマノスズクサ科	フタバアオイ	●	●				注目	
20		ウスバサイシン	●	●				注目	
21	ボタン科	ヤマシャクヤク	●	●			準絶	II類	
22	オトギリソウ科	トモエソウ		●				II類	
23		ヒメオトギリ	●					II類	
24	アブラナ科	ミズタガラシ	●					注目	
25		ユリワサビ		●				I類	
26	ベンケイソウ科	ミセバヤ	●	●			IB類		
27		チチツパベンケイ	●					II類	
28	ユキノシタ科	コガネネコノメソウ	●					注目	
29		タコノアシ		●			準絶	I類	
30		ヤシャビシャク	●				準絶	II類	
31	バラ科	クサボケ		●				II類	
32		ミチノクナシ	●	●			IA類		
33	ミカン科	フユザンショウ	●					準絶	
34	モチノキ科	ツルツゲ	●	●				注目	
35	ニシキギ科	イワウメヅル		●				II類	
36		ニシキギ		●				準絶	
37	ツゲ科	ツゲ	●					注目	
38	シナノキ科	オオバボダイジュ	●	●					○
39	ジンチョウゲ科	エゾナニワズ	●	●				準絶	○
40		カラスシキミ	●					注目	
41	ミゾハコベ科	ミゾハコベ	●	●				注目	
42	ミソハギ科	ミズマツバ	●	●			II類	II類	
43	アカバナ科	ウシタキソウ	●					準絶	
44	イチヤクソウ科	ウメガサソウ		●				注目	
45	サクラソウ科	ミヤマタゴボウ	●	●				II類	
46	サクラソウ科	ハイハマボッサ	●				準絶	I類	
47	エゴノキ科	オオバアサガラ	●	●					○
48	リンドウ科	リンドウ	●					注目	
49	キョウチクトウ科	チョウジソウ	●	●			準絶	I類	
50	ガガイモ科	ツルガシワ	●	●				II類	
51		コカモメヅル		●				準絶	

表 5.1-5(2) 文献及び事業者の調査で確認された種子植物・シダ植物の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由				
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d	e
52	アカネ科	ハナムグラ		●			II類		
53	ヒルガオ科	マメダオシ	●				IA類		
54	シソ科	フトボナギナタコウジュ	●	●					○
55		キセワタ	●				II類	I類	
56	ゴマノハグサ科	アブノメ	●	●				II類	
57		オオヒナノウスツボ	●	●				注目	
58	タヌキモ科	イヌタヌキモ		●			準絶		
59	オオバコ科	トウオオバコ	●	●				注目	
60	レンプクソウ科	レンプクソウ	●	●				II類	
61	マツムシソウ科	ナベナ	●	●				II類	
62	キキョウ科	シデシヤジン	●					注目	
63	キク科	カガノアザミ	●	●				II類	
64		キクタニギク		●			準絶		
65		アキノハハコグサ	●	●			II類	I類	
66		コオニタビラコ	●	●				II類	
67		メタカラコウ	●					注目	
68	トチカガミ科	ヤナギスプタ		●				準絶	
69		クロモ	●					II類	
70	ヒルムシロ科	エビモ	●	●				注目	
71		センニンモ		●				II類	
72		ササバモ		●				準絶	
73	イバラモ科	ホッスモ	●	●				II類	
74	ユリ科	ミノコバイモ	●				II類	I類	
75		キバナノアマナ	●					I類	
76		ノカンゾウ	●					II類	
77	アヤメ科	カキツバタ		●			準絶	II類	
78	サトイモ科	ショウブ	●	●				注目	
79		アシウテンナンショウ	●	●				注目	
80	ミクリ科	ミクリ	●	●			準絶	準絶	
81	カヤツリグサ科	フクイカサスゲ	●	●					○
82		タカネマスクサ	●					注目	
83	ラン科	エビネ	●	●			準絶	II類	
84		ナツエビネ	●	●			II類	II類	
85		サルメンエビネ	●	●			II類	I類	
86		イチヨウラン	●					I類	
87		コイチヨウラン	●					準絶	
88		オニノヤガラ	●					準絶	
89		ノビネチドリ	●					準絶	
90		ホクリクムヨウラン	●	●				II類	
91		ジンバイソウ	●					注目	
92		キソチドリ	●					注目	
93		オオバナオオヤマサギソウ	●				IA類		
94		コバノトンボソウ	●					準絶	
53科94種			78種	55種	0種	0種	28種	81種	7種

注)1. 調査地域

文献調査: 自然的状況の調査範囲(図4-1)(文献によっては市町村、地形、メッシュの単位で生育種が示されているものがあるため、調査範囲外の生育種が含まれている可能性がある。)

事業者の調査: 自然的状況の調査範囲(図5.1-1~3)

2. 分類体系

原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト[平成20年度版](水情報国土データ管理センター 河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)http://www3.river.go.jp/system/seibutsuList.htm#)」に従った。

3. 選定理由

a: 文化財保護法に基づき指定された天然記念物及び特別天然記念物、福井県文化財保護条例、福井市文化財保護条例、池田町文化財保護条例に基づき指定された天然記念物

b: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づき定められた国内希少野生動植物種及び緊急指定種

- c:「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月)」掲載種
 IA類:絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
 IB類:絶滅危惧ⅠB類(IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
 II類:絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。(絶滅危惧Ⅰ類:絶滅の危険に瀕している種。現在の状態をもたらす圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの)
 準絶:準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)
 d:「福井県の絶滅のおそれのある野生植物—福井県レッドデータブック(植物編)—(福井県 平成16年3月)」掲載種
 I類:県域絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの)
 II類:県域絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「県域絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)
 準絶:県域準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)
 注目:要注目(評価するだけの情報が不足している種。地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群)
 e:その他専門家により指摘された重要な種
 ○:その他専門家により指摘された重要な種
 カラハナソウ:専門家の指摘により、北海道、本州(中部地方以北)に分布するが、福井県内における産地が少ない種であることから、重要な種として取り扱う。
 オオイタドリ:専門家の指摘により、北海道、本州(中部地方以北)に分布するが、福井県内における産地が少ない種であることから、重要な種として取り扱う。
 オオバボダイジュ:専門家の指摘により、北海道、本州(東北地方・北陸地方・関東地方北部)に分布するが、福井県内における産地が少ない種であることから、重要な種として取り扱う。
 エゾナニワズ:専門家の指摘により、福井県が日本における分布の南西限にあたり、県内で確認された個体数や産地が少ない種であることから、重要な種として取り扱う。
 オオバアサガラ:専門家の指摘により、旧美山町が日本海側における分布の北東限であることから、重要な種として取り扱う。
 フトボナギナタコウジュ:専門家の指摘により、本州(関東地方西部以西)、九州に分布するが、福井県内における産地が少ない種であることから、重要な種として取り扱う。
 フクイカササゲ:専門家の指摘により、旧美山町が日本海側における分布の北東限であることから、重要な種として取り扱う。

4. その他

- ミセバヤ、キクタニギク、カキツバタ:事業者の調査で確認されたミセバヤ、キクタニギク及びカキツバタは逸出種である。
 エゾナニワズ:「福井県の絶滅のおそれのある野生植物—福井県レッドデータブック(植物編)—(福井県 平成16年3月)」ではナニワズと記載されているが、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト[平成20年度版](水情報国土データ管理センター 河川環境データベース(河川水辺の国勢調査))」の表記に従いエゾナニワズと記載した。

表 5.1-6 文献及び事業者の調査で確認された重要な群落

No.	群落名	確認状況		選定理由		
		文献調査	事業者の調査	a	b	c
1	冠平の風衝地植生(今立郡池田町)	●			要注意	
2	ブナ・ウスギヨウラク・チシマザサ群落(今立郡池田町)	●			対策	
	2群落	2群落	0群落	0群落	2群落	0群落

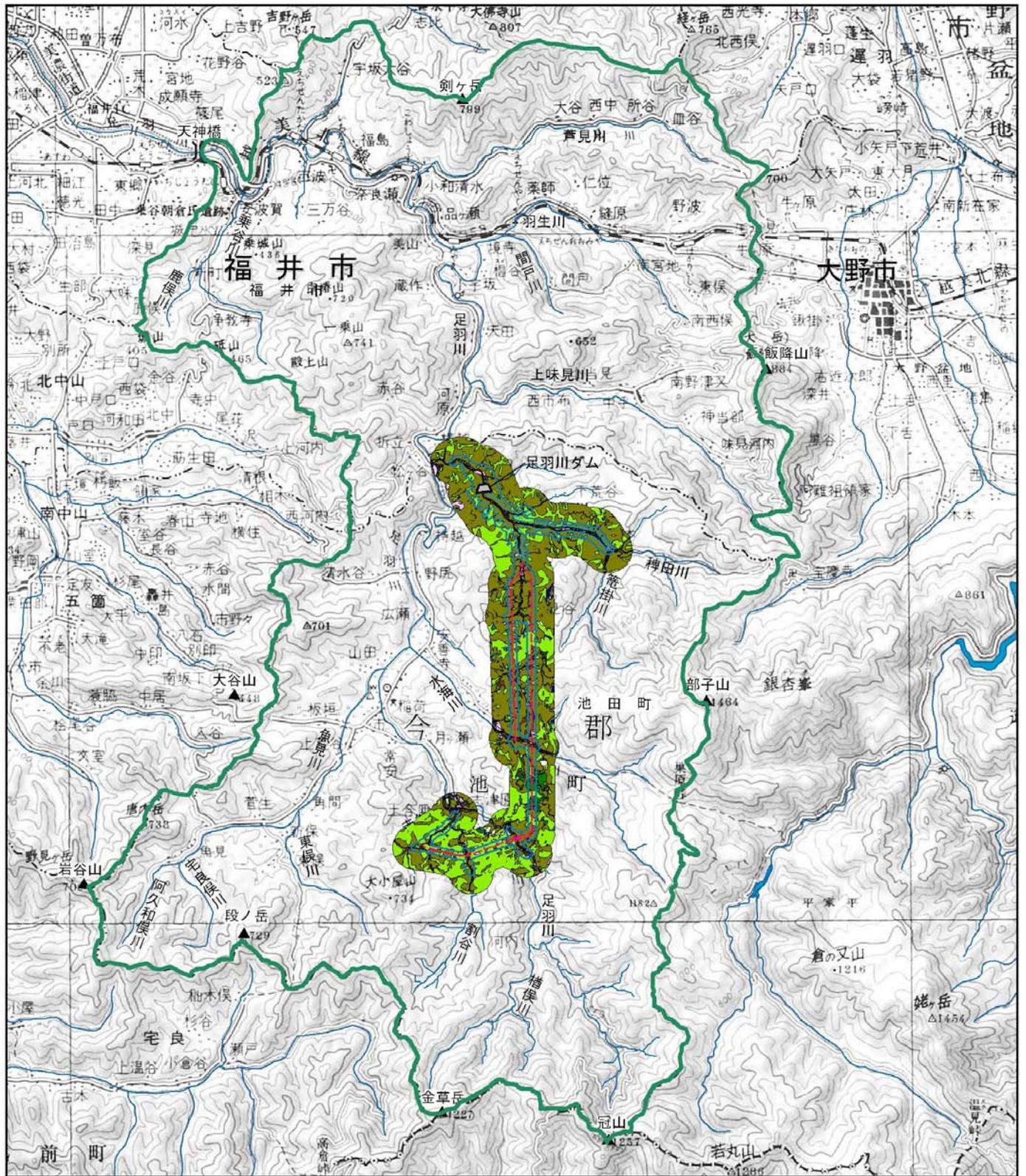
注)1. 調査地域

文献調査:自然的状況の調査範囲(図 4-1)(文献によっては市町村、地形単位で群落が示されているものがあるため、調査範囲外の群落が含まれている可能性がある。)

事業者の調査:自然的状況の調査範囲(図 5.1-1~2)

2. 選定理由

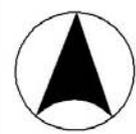
- a:文化財保護法に基づき指定された天然記念物及び特別天然記念物、福井県文化財保護条例、福井市文化財保護条例、池田町文化財保護条例に基づき指定された天然記念物
 b:「植物群落レッドデータブック(財団法人 日本自然保護協会 平成8年4月)」に掲載されている群落
 対策:対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する。
 要注意:当面、新たな保護対策は必要ない(監視必要)
 c:その他専門家により指摘された重要な群落



凡 例

- : ダム堤体
- : ダム洪水調節地
- : 導水施設予定地
- : 対象事業実施区域
- : 自然的状況の調査範囲
- : 県界
- : 市町村界
- : 河川

- フナ群落
- ケヤキ群落
- 渓谷高木林
- ミヤマカワラハンノキ群落
- ヤナギ低木林
- ツルヨシ群落
- オキ群落
- エビモ群落
- 自然裸地
- アカマツ群落
- ミズナラ群落
- コナラ群落
- イタヤカエデ群落
- イヌシデ群落
- オニグルミ群落
- ミズメ群落
- アカメカシワ群落
- スルデ群落
- ナムノキ群落
- タニツギ群落
- マルハマナサク群落
- イタチハギ群落
- ハリエンジュ群落
- クス群落
- ノブドウ群落
- 多年生草本群落
- チマキザサ群落
- 一年生草本群落
- スギ植林
- モウソウチク林
- 伐採地
- 耕作地 (水田)
- 耕作地 (畑地)
- 住宅地・道路・人工構造物
- 造成地
- 開放水面



Scale 1 : 150,000



図 5.1-4
現存植生図

5.2 付着藻類

5.2.1 調査項目

(1) 付着藻類相調査

付着藻類相調査は、文献及び事業者の調査により実施した。

(2) 重要な種の調査

重要な種の調査は、文献及び事業者の調査により実施した。重要な種にかかる事業者の調査は、付着藻類相調査及び付着藻類の重要な種の調査とした。

重要な種の選定結果は表 5.2-4 に示すとおりである。

5.2.2 調査方法

(1) 文献調査

1) 調査対象文献

調査対象文献は以下に示すとおりとした。

文献 1：美山町史 上巻(美山町史編さん委員会 昭和 59 年 9 月)

文献 2：福井県の付着藻類 福井県の陸水生物[みどりのデータバンク付属資料]
(福井県 昭和 60 年 9 月)

文献 3：福井県の付着藻類 福井県の陸水生物[みどりのデータバンク付属資料
(第 2 回)](福井県 平成 10 年 3 月)

文献 4：福井県の絶滅のおそれのある野生植物—福井県レッドデータブック(植物編)—
(福井県 平成 16 年 3 月)

2) 調査地域

調査地域は、図 4-1 に示す地域の自然的状況の調査範囲とした。ただし、文献によっては市町村、地形、メッシュの単位で生育種が示されているものがあるため、調査範囲外の生育種が含まれている可能性がある。

(2) 事業者の調査

1) 付着藻類相調査

① 調査方法

現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析によった。現地調査の手法、内容及び実施状況を表 5.2-1 に示す。

② 調査地域

調査地域は自然的状況の調査範囲とした。調査地点は、生育種の状況、重要な種の分布、生育の状況、生育環境を適切かつ効率的に把握できる地点及び経路とした。調査地域、調査地点及び調査経路を図 5.2-1 に示す。

③ 調査期間等

現地調査の調査期間、時期は表 5.2-1 に示すとおりであり、調査時期は植物の生態の特性を踏まえ、さらに、確認の容易さ等を勘案して設定した。

表 5. 2-1 付着藻類相の現地調査の手法、内容及び実施状況

項目	内容					
調査すべき情報	付着藻類(付着藻類相)					
調査地域・調査地点	自然的状況の調査範囲(図 5. 2-1 参照)					
現地調査の内容	1. 定量採集 調査地点において藻類が標準的なつき方をしている河川中の石の表面にコドラート(5cm×5cmの方形枠)を設置し、コドラート内の付着藻類をブラシで洗い落とし、採集した。 2. 定性採集 調査地点のさまざまな環境で、付着藻類を任意に採集した。					
調査期間・調査時期	調査年度	調査時期				現地調査手法
		春季	夏季	秋季	冬季	
	昭和60年度	—	8/7	—	12/13	付着藻類相調査 1. 定量採集 2. 定性採集
	平成3年度	—	9/1, 2	—	1/16, 17	付着藻類相調査 1. 定量採集
	平成4年度	5/12, 13	—	10/20, 22 10/23	—	付着藻類相調査 1. 定量採集
	平成8年度	5/14	8/9	10/19	—	付着藻類相調査 1. 定量採集 2. 定性採集
	平成10年度	5/9	8/19	—	—	付着藻類相調査 1. 定量採集 2. 定性採集
	平成13年度	5/12	9/4	10/18	12/18, 19	付着藻類相調査 1. 定量採集 2. 定性採集
	平成17年度	—	7/31 8/1~3	10/23~25	12/18, 19 12/25~27	付着藻類相調査 1. 定量採集
	平成18年度	5/22~25 6/19	7/31 8/1~4	10/16~20	12/18~20	付着藻類相調査 1. 定量採集
	平成19年度	—	7/30, 31 8/1, 2	9/21~28 10/18~21	12/13, 17 12/18, 27 12/28 2/13~15	付着藻類相調査 1. 定量採集

2) 重要な種の調査

① 調査方法

現地調査の情報により、分布、生育の状況及び生育環境の情報を整理、解析した。現地調査の基本的な手法は表 5. 2-2 に示す現地調査の手法及び現地調査の内容とした。

② 調査地域

付着藻類の重要な種の調査地域は、自然的状況の調査範囲とした。

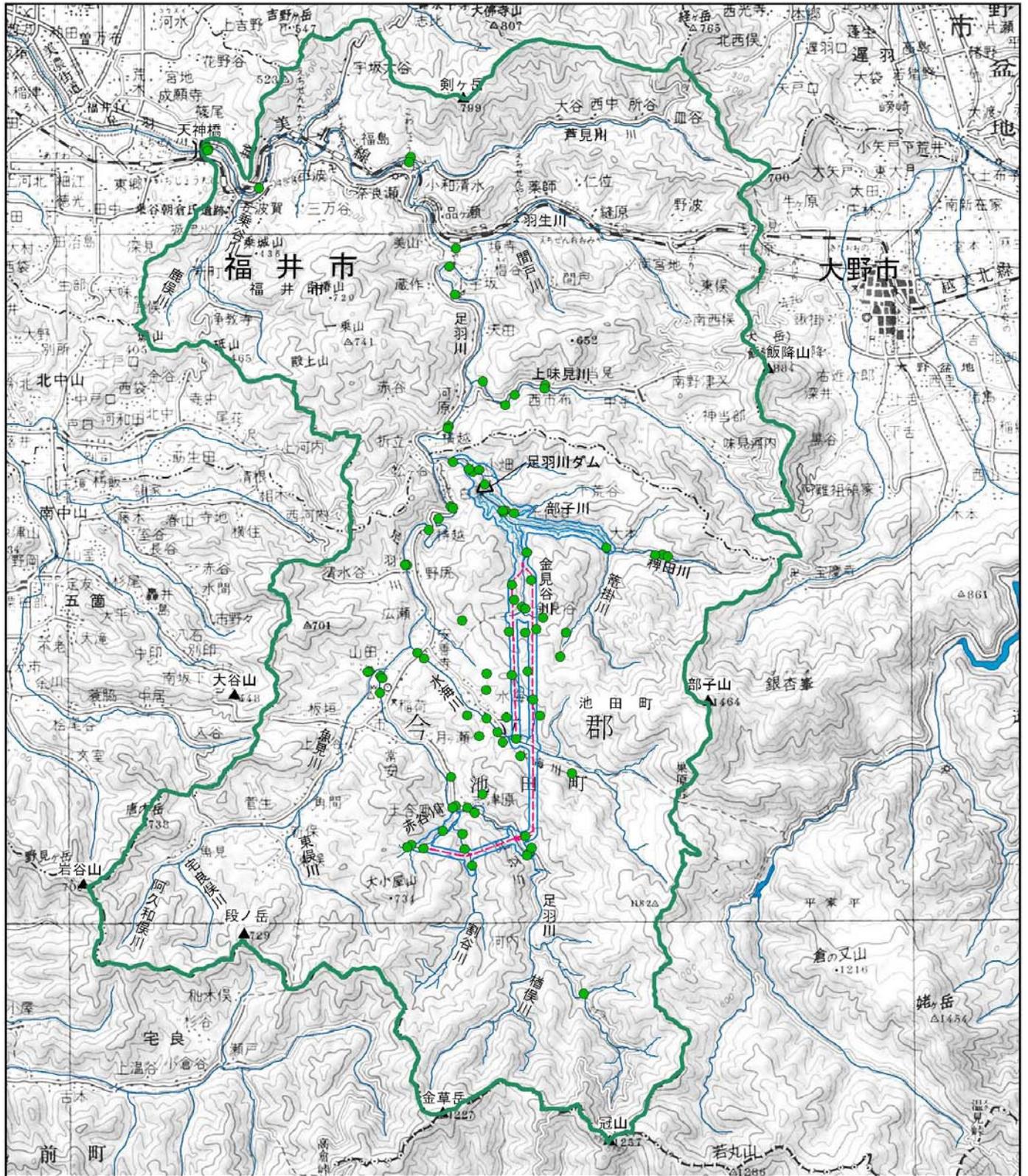
調査地点は重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況を適切かつ効率的に把握できる調査地点及び経路とした。調査地域、調査地点及び調査経路を図 5. 2-2 に示す。

③ 調査期間等

現地調査の調査期間、時期は、植物の生態の特性を踏まえ、調査対象種の確認の容易さ等を勘案し設定した。現地調査の実施状況を表 5. 2-2 に示す。

表 5. 2-2 付着藻類の重要な種の現地調査の手法、内容及び実施状況

項目	内容					
調査すべき情報	付着藻類の重要な種					
調査地域・調査地点	自然的状況の調査範囲(図 5. 2-2)					
現地調査の内容	1. 踏査 河川に沿って踏査し、付着藻類の目視確認またはスクレーパーによる採集を行った。					
調査期間・調査時期	調査年度	調査時期				現地調査手法
		春季	夏季	秋季	冬季	
	平成18年度	6/20~23	—	—	2/13~15 3/5~9	アシツキ、ベニマダラ、カワモヅク、ミズオを対象とした調査 1. 踏査
平成19年度	—	8/25~27	—	2/13~15	アシツキ、ベニマダラ、カワモヅク、ミズオを対象とした調査 1. 踏査	



凡 例

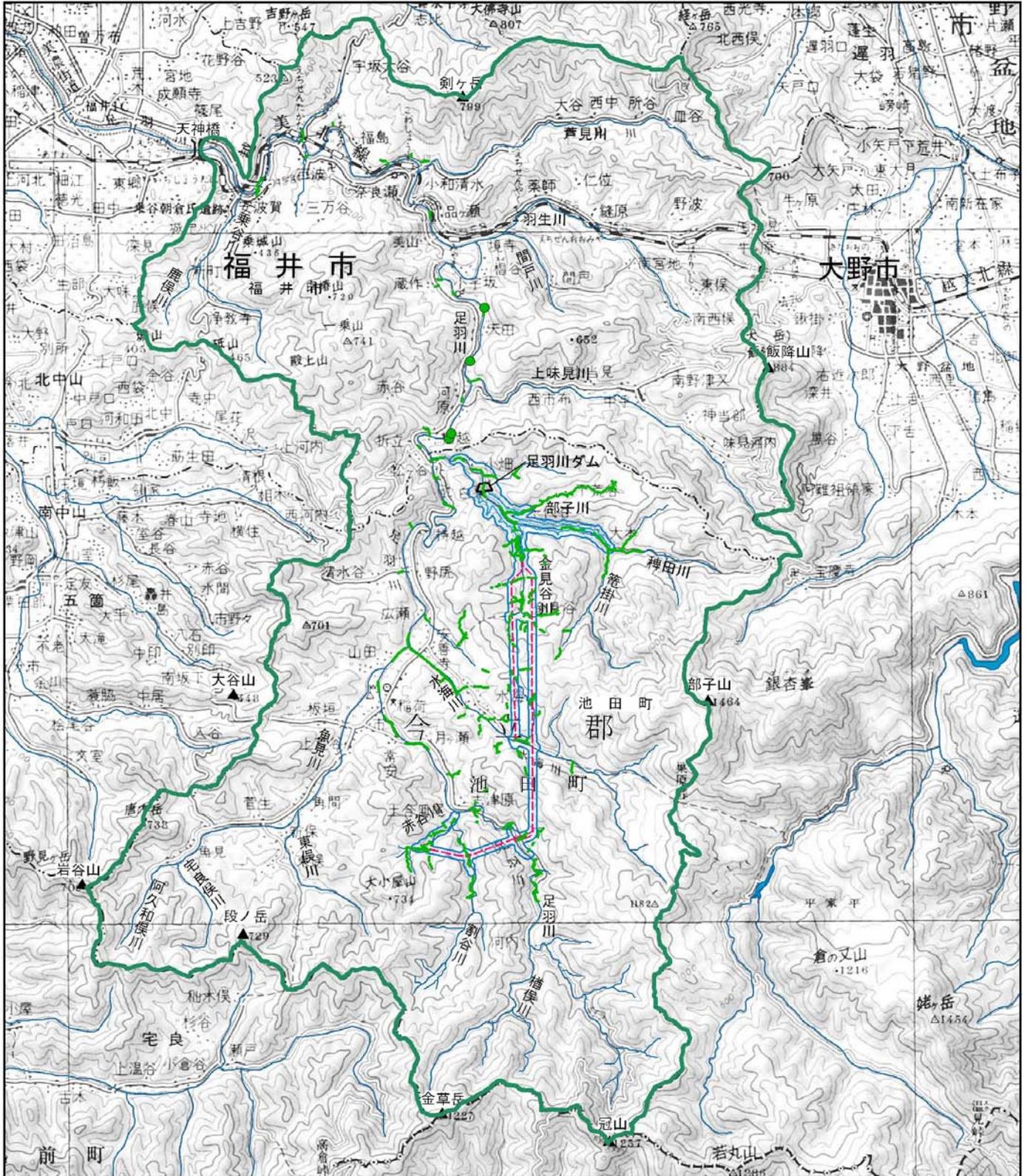
-  : ダム堤体
-  : ダム洪水調節地
-  : 導水施設予定地
-  : 対象事業実施区域
-  : 自然的状況の調査範囲
-  : 県界
-  : 市町村界
-  : 河川
-  : 調査地点



Scale 1 : 150,000



図 5.2-1
付着藻類既往調査地点
(付着藻類相調査)



凡 例

-  : ダム堤体
-  : ダム洪水調節地
-  : 導水施設予定地
-  : 対象事業実施区域
-  : 自然的状況の調査範囲
-  : 県界
-  : 市町村界
-  : 河川
-  : 調査地点
-  : 調査経路



Scale 1 : 150,000



図 5.2-2
付着藻類既往調査地点及び調査経路
(重要な種調査)

5.2.3 調査結果

付着藻類の確認種リストを表 5.2-3 に、重要な種リストを表 5.2-4 に示す。

表 5. 2-3(4) 文献及び事業者の調査で確認された付着藻類のリスト

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	文献調査				事業者の調査									調査地域 内外		
							1	2	3	4	S60	H3	H4	H8	H10	H13	H16	H17	H18		H19	
-	緑色植物門	緑藻綱	ミドリケ目	シオグサ科		<i>Cladophora</i> sp.					○											○
192			ホシミドロ目	ホシミドロ科		<i>Spirogyra</i> sp.			○													○
193				ツヅミモ科		<i>Closterium moniliferum</i>																○
-						<i>Closterium</i> sp.																○
194		輪藻綱	シャジクモ目	シャジクモ科	シャジクモ	<i>Cosmarium</i> sp.			○													○
195						<i>Chara braunii</i>																○
合計 5門8綱20目33科195種							5綱75種				8綱194種									8綱194種		

(出典)

- 文献1：美山町史 上巻(美山町史編さん委員会 昭和59年9月)
- 文献2：福井県の付着藻類 福井県の陸水生物(みどりのデータバンク付属資料)(福井県 昭和60年9月)
- 文献3：福井県の付着藻類 福井県の陸水生物(みどりのデータバンク付属資料 第2回)(福井県 平成10年3月)
- 文献4：福井県の絶滅のおそれのある野生植物 福井県レッドデータブック(植物編)(福井県 平成16年3月)

(分類体系)

・原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト[平成20年度 河川・ダム湖統一版](財団法人 ダム水源地環境整備センター 平成20年)」及び「福井県の絶滅のおそれのある野生動物-福井県レッドデータブック-(植物編)(福井県 平成16年3月)」に従ったが、同目録に記載のない種についてはその他の資料を用いて分類を行った。使用した目録を以下に示す。

1. 「淡水珪藻生態図鑑(廣瀬弘幸・山岸高旺 編 内田老鶴園新社 昭和52年10月)」
2. 「淡水珪藻生態図鑑(渡辺仁治 内田老鶴園新社 平成17年5月)」
3. 「Krammer, Kurt und H. Lange-Bertalot : Susswasserflora von Mitteleuropa, Bacillariophyceae 2/1 Teil, Gustav Fischer Verlag, Stuttgart · New York (1986)」
4. 「日本産Naviculaの1新変種(木村努・福島博・小林艶子 Navicula subalpina var. gassanensis. 植物研究雑誌 2006)」
5. 「Krammer, Kurt und H. Lange-Bertalot : Susswasserflora von Mitteleuropa, Bacillariophyceae 2/2 Teil, Gustav Fischer Verlag, Stuttgart · New York (1988)」

・確認された種のうち、他の種と重複する可能性がある種は種数の合計から除いた。

(注)

・チャイロカワモズク：本種の和名は「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月)」において、チャイロカワモズク(新称)が記載されている。ただし、本資料では「福井県の絶滅のおそれのある野生植物-福井県レッドデータブック-(植物編)(福井県 平成16年3月)」に記載されている「カワモズク科」にあわせて「チャイロカワモズク」とした。

(調査地域内外)

- ：調査地域内で確認
- ×：調査地域外のみで確認
- ：現地調査では未確認

表 5.2-4 文献及び事業者の調査で確認された付着藻類の重要な種

No	綱名	種名	確認状況		選定理由				
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d	e
1	藍藻綱	アシツキ	●	●				注目	
2	紅藻綱	カワモヅク	●				Ⅱ類	準絶	
3		チャイロカワモヅク		●			準絶	注目	
4		アオカワモヅク		●			準絶	準絶	
5		ベニマダラ	●	●			準絶	準絶	
6	黄金色藻綱	ミズオ	●	●				注目	
7	輪藻綱	シャジクモ		●			Ⅱ類	準絶	
4綱7種			4種	6種	0種	0種	5種	7種	0種

注)1. 調査地域

文献調査: 自然的状況の調査範囲(図 4-1) (文献によっては市町村、地形、メッシュの単位で生育種が示されているものがあるため、調査範囲外の生育種が含まれている可能性がある。)

事業者の調査: 自然的状況の調査範囲(図 5.2-1~2)

2. 分類体系

原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト[平成 20 年度版](水情報国土データ管理センター 河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)<http://www3.river.go.jp/system/seibutsuList.htm#>)」及び「日本淡水藻図鑑(廣瀬弘幸、山岸高旺編集 昭和 52 年 10 月)」に従った。

3. 選定理由

a: 文化財保護法に基づき指定された天然記念物及び特別天然記念物、福井県文化財保護条例、福井市文化財保護条例、池田町文化財保護条例に基づき指定された天然記念物

b: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づき定められた国内希少野生動植物種及び緊急指定種

c: 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成 19 年 8 月)」掲載種

Ⅱ類: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。(絶滅危惧Ⅰ類: 絶滅の危惧に瀕している種。現在の状態をもたらす圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの))

準絶: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

d: 「福井県の絶滅のおそれのある野生植物—福井県レッドデータブック(植物編)—(福井県 平成 16 年 3 月)」掲載種

準絶: 県域準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

注目: 要注目(評価するだけの情報が不足している種。地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群)

e: その他専門家により指摘された重要な種

4. その他

チャイロカワモヅク: 「福井県の絶滅のおそれのある野生植物—福井県レッドデータブック(植物編)—(福井県 平成 16 年 3 月)」ではバトラコスペルマム アルクワタムと記載されている。また、「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成 19 年 8 月)」において、チャイロカワモヅク(新称)が記載されている。本資料では「福井県の絶滅のおそれのある野生植物—福井県レッドデータブック—(植物編)(福井県 平成 16 年 3 月)」に記載されている「カワモヅク科」にあわせて「チャイロカワモヅク」とした。

5.3 その他の植物(蘚苔類)

5.3.1 調査項目

(1) 蘚苔類相調査

蘚苔類相調査は、文献及び事業者の調査により実施した。

(2) 重要な種の調査

重要な種の調査は、文献及び事業者の調査により実施した。重要な種にかかる事業者の調査は、蘚苔類相に兼ねて行った。

重要な種の選定結果は表 5.3-3 に示すとおりである。

5.3.2 調査方法

(1) 文献調査

1) 調査対象文献

調査対象文献は以下に示すとおりとした。

文献 1：美山町史 上巻(美山町史編さん委員会 昭和 59 年 9 月)

文献 2：福井市立郷土自然科学博物館資料目録(2) 植物標本総合目録(福井市立郷土自然科学博物館 昭和 48 年 3 月)

文献 3：福井陸水生物会報 1 号(福井陸水生物研究会 昭和 55 年 3 月)

文献 4：福井総合植物園紀要(福井総合植物園 平成 16 年 3 月)

2) 調査地域

調査地域は、図 4-1 に示す地域の自然的状況の調査範囲とした。ただし、文献によっては市町村、地形、メッシュの単位で生育種が示されているものがあるため、調査範囲外の生育種が含まれている可能性がある。

(2) 事業者の調査

1) 蘚苔類相調査

① 調査方法

現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析によった。現地調査の手法、内容及び実施状況を表 5.3-1 に示す。

② 調査地域

調査地域は自然的状況の調査範囲とした。調査地点は、生育種の状況、重要な種の分布、生育の状況、生育環境を適切かつ効率的に把握できる地点及び経路とした。調査地域、調査地点及び調査経路を図 5.3-1 に示す。

③ 調査期間等

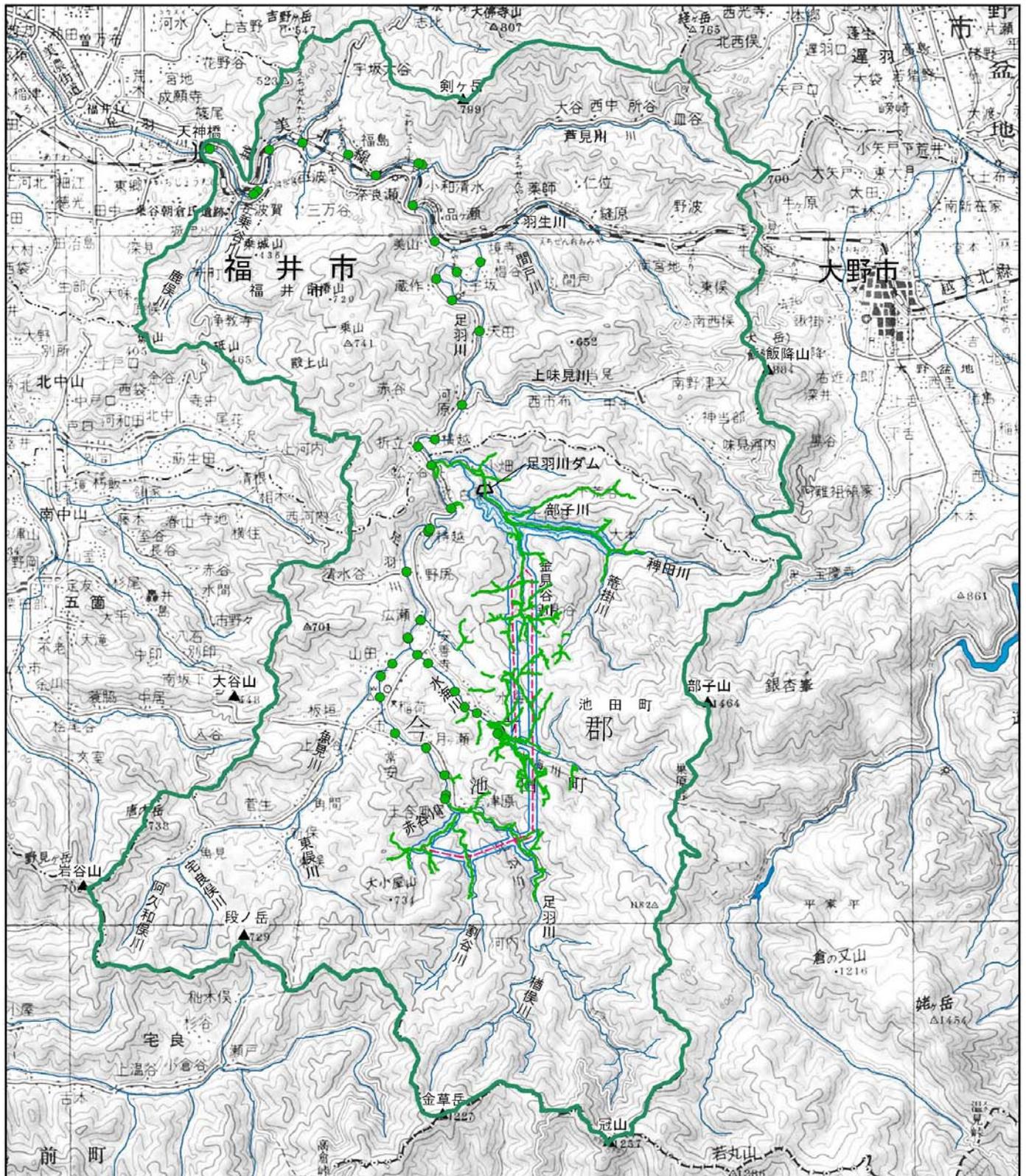
現地調査の調査期間、時期は表 5.3-1 に示すとおりであり、調査時期は植物の生態の特性を踏まえ、さらに、確認の容易さ等を勘案して設定した。

表 5.3-1 蘚苔類相の現地調査の手法、内容及び実施状況

項目	内容					
調査すべき情報	蘚苔類(蘚苔類相)					
調査地域・調査地点	自然的状況の調査範囲(図 5.3-1 参照)					
現地調査の内容	1. 任意採集 調査地域内を踏査し、確認した蘚苔類を採取した。					
調査期間・調査時期	調査年度	調査時期				現地調査手法
		春季	夏季	秋季	冬季	
	平成 19 年度	—	6/19～21 9/9～11	11/24～29	—	蘚苔類相調査 1. 任意採集

2) 重要な種の調査

蘚苔類の重要な種の調査は蘚苔類相と兼ねておこなった。



凡 例

- ▲ : ダム堤体
- : 調査地点
- (with blue border) : ダム洪水調節地
- (with red dashed border) : 導水施設予定地
- (with blue border) : 対象事業実施区域
- (with green border) : 自然的状況の調査範囲
- (with double line) : 県界
- (with dashed line) : 市町村界
- (with solid line) : 河川



Scale 1:150,000

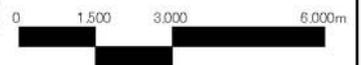


図 5.3-1
 蘚苔類既往調査地点
 (蘚苔類相調査)

5.3.3 調査結果

蘚苔類の確認種リストを表 5.3-2 に、重要な種リストを表 5.3-3 に示す。

表 5.3-2(1) 文献及び事業者の調査で確認された蘚苔類のリスト

No	綱名	科名	和名	学名	文献調査				事業者の調査 H19	調査地域 内外	
					1	2	3	4			
1	蘚綱	ヨツバゴケ科	ヨツバゴケ	<i>Tetraphis pellucida</i>				○	○	○	
2		キセルゴケ科	ミヤマイクビゴケ	<i>Diphygium foliosum</i>					○	○	
3			イクビゴケ	<i>Diphygium fulvifolium</i>					○	○	
4		スギゴケ科	ヒメダチゴケ	<i>Atrichum rhystophyllum</i>				○	○	○	
5				ナミガタチゴケ	<i>Atrichum undulatum</i>				○	○	○
6				ヤクシマタチゴケ	<i>Atrichum yakushimense</i>					○	○
7				コセイタカスギゴケ	<i>Pogonatum contortum</i>				○	○	○
8				コスギゴケ	<i>Pogonatum inflexum</i>					○	○
9				ヒメスギゴケ	<i>Pogonatum neesii</i>					○	○
10				チャボスギゴケ	<i>Pogonatum otaruense</i>					○	○
11				ハミズゴケ	<i>Pogonatum spinulosum</i>					○	○
12				ヤマコスギゴケ	<i>Pogonatum urnigerum</i>					○	○
13				ウマスギゴケ	<i>Polytrichum commune</i>	○				○	○
14			オオスギゴケ	<i>Polytrichum formosum</i>	○	○			○	○	
15	ホウオウゴケ科		コホウオウゴケ	<i>Fissidens adelphinus</i>					○	○	○
16				エソホウオウゴケ	<i>Fissidens bryoides</i>					○	○
17			スナジホウオウゴケ	<i>Fissidens bryoides</i> var. <i>esquirolii</i>				○	○	○	
18			ツクシホウオウゴケ	<i>Fissidens bryoides</i> var. <i>lateralis</i>				○	○	○	
19			ホソベリホウオウゴケ	<i>Fissidens bryoides</i> var. <i>ramosissimus</i>				○	○	○	
20			キュウシュウホウオウゴケ	<i>Fissidens closteri</i> subsp. <i>kiushuensis</i>				○	○	○	
21			イワマホウオウゴケ	<i>Fissidens curvatus</i>				○	○	○	
22			トサカホウオウゴケ	<i>Fissidens dubius</i>				○	○	○	
23			ナガサキホウオウゴケ	<i>Fissidens geminiflorus</i>			○		○	○	
24			ジョウレンホウオウゴケ	<i>Fissidens geppii</i>				○	○	○	
25			ヒメホウオウゴケ	<i>Fissidens gymnogynus</i>				○	○	○	
26			サツマホウオウゴケ	<i>Fissidens hyalinus</i>				○	○	○	
27			ハネホウオウゴケ	<i>Fissidens involutus</i>				○	○	○	
28		ジングウホウオウゴケ	<i>Fissidens linearis</i> var. <i>obscurirete</i>				○	○	○		
29		ホウオウゴケ	<i>Fissidens nobilis</i>				○	○	○		
30		キャラボクゴケ	<i>Fissidens taxifolius</i>				○	○	○		
31		チャボホウオウゴケ	<i>Fissidens tosaensis</i>				○	○	○		
32	キンシゴケ科	ヤノウエノアカゴケ	<i>Ceratodon purpureus</i>					○	○	○	
33			ヒメキンシゴケ	<i>Ditrichum macrorhynchum</i>					○	○	
34			ベニエキンシゴケ	<i>Ditrichum rhynchostegium</i>					○	○	
35	エビゴケ科	エビゴケ	<i>Bryoxiphium norvegicum</i> subsp. <i>japonicum</i>					○	○		
36	キシッポゴケ科	キシッポゴケ	<i>Blindia japonica</i>				○	○	○		
37	シッポゴケ科	シッポゴケ	<i>Brothera leana</i>					○	○	○	
38			シメリイワゴケ	<i>Dichodontium pellucidum</i>				○	○	○	
39			ススキゴケ	<i>Dicranella heteromella</i>					○	○	
40			ナガスジススキゴケ	<i>Dicranella varia</i>					○	○	
41			ユミゴケ	<i>Dicranodontium denudatum</i>					○	○	
42			ミヤマシッポゴケ	<i>Dicranoloma cylindrothecium</i>				○	○	○	
43			シッポゴケ	<i>Dicranum japonicum</i>					○	○	
44			ナスシッポゴケ	<i>Dicranum leiodontum</i>					○	○	
45			コカモジゴケ	<i>Dicranum mayrii</i>					○	○	
46			オオシッポゴケ	<i>Dicranum nipponense</i>					○	○	
47			ナミシッポゴケ	<i>Dicranum polysetum</i>	○	○			○	○	
48			カモジゴケ	<i>Dicranum scoparium</i>					○	○	
49			タカネカモジゴケ	<i>Dicranum viride</i> var. <i>hakkodense</i>				○	○	○	
50		チヂミバコゴケ	<i>Oncophorus crispifolius</i>					○	○		
51		ナメハヤスジゴケ	<i>Rhabdoweisia crispata</i>					○	○		
52		ユミダイゴケ	<i>Trematodon longicollis</i>					○	○		
53	シラガゴケ科	ホソバオキナゴケ	<i>Leucobryum juniperoideum</i>				○	○	○		
54	センボンゴケ科	イトラッキョウゴケ	<i>Anoetangium thomsonii</i>					○	○	○	
55			ネジクチゴケ	<i>Barbula unguiculata</i>				○	○	○	
56			チュウゴクネジクチゴケ	<i>Didymodon constrictus</i>				○	○	○	
57			カタハマキゴケ	<i>Hypophila involuta</i>				○	○	○	
58			ハマキゴケ	<i>Hypophila propagulifera</i>					○	○	
59			ツクチヒゲゴケ	<i>Oxystegus tenuirostris</i>					○	○	
60			コネジレゴケ	<i>Tortella japonica</i>					○	○	
61			ヘラハネジレゴケ	<i>Tortula muralis</i>					○	○	
62			クチヒゲゴケ	<i>Trichostomum brachydontium</i>					○	○	
63			ツチノウエノコゴケ	<i>Weissia controversa</i>				○	○	○	
64			ツチノウエノタマゴケ	<i>Weissia crispa</i>					○	○	
65			ホソバトジクチゴケ	<i>Weissia edentula</i>					○	○	
66		ギボウシゴケ科	コアミメギボウシゴケ	<i>Grimmia brachydactylon</i>				○	○	○	
67			ケギボウシゴケ	<i>Grimmia pilifera</i>					○	○	
68			ナガバチジレゴケ	<i>Ptychomitrium linearifolium</i>				○	○	○	

表 5.3-2 (2) 文献及び事業者の調査で確認された蘚苔類のリスト

No	綱名	科名	和名	学名	文献調査				事業者の調査 H19	調査地域 内外				
					1	2	3	4						
69	(蘚綱)	(ギボウシゴケ科)	コバナスナゴケ	<i>Racomitrium barbulooides</i>						○	○			
70			チョウセンスナゴケ	<i>Racomitrium carinatum</i>							○	○		
71			エソスナゴケ	<i>Racomitrium japonicum</i>				○	○		○	○		
72			ギボウシゴケ	<i>Schistidium apocarpum</i>						○		—		
73			ミスギボウシゴケ	<i>Schistidium rivulare</i>							○	○		
74			ホソバギボウシゴケ	<i>Schistidium strictum</i>					○	○		○		
75			ヒョウタンゴケ科	ヒョウタンゴケ	<i>Funaria hygrometrica</i>						○	○		
76				ヒロクチゴケ	<i>Physcomitrium eurystomum</i>							○	○	
77				アゼゴケ	<i>Physcomitrium sphaericum</i>								○	
78			ハリガネゴケ科	ホソウリゴケ	<i>Brachyvenium exile</i>							○	○	
79				ギンゴケ	<i>Bryum argenteum</i>							○	○	
80				ハリガネゴケ	<i>Bryum capillare</i>								○	○
81				ランヨウハリガネゴケ	<i>Bryum cyclophyllum</i>								○	○
82	オオハリガネゴケ	<i>Bryum pseudotriquetrum</i>						○	○		○	○		
83	アカスジゴケ	<i>Epipterygium tozeri</i>									○	○		
84	ナシゴケ	<i>Leptobryum pyriforme</i>									○	○		
85	ケヘチマゴケ	<i>Pohlia flexuosa</i>							○	○		○		
86	チョウチンハリガネゴケ	<i>Pohlia wahlenbergii</i>									○	○		
87	チョウチンゴケ科	ナメリチョウチンゴケ		<i>Mnium lycopodioides</i>							○	○		
88		コツボゴケ	<i>Plagiomnium acutum</i>								○	○		
89		ツボゴケ	<i>Plagiomnium cuspidatum</i>							○	○			
90		ツルチョウチンゴケ	<i>Plagiomnium maximoviczii</i>								○	○		
91		オオバチョウチンゴケ	<i>Plagiomnium vesicatum</i>								○	○		
92		クチョウチンゴケ	<i>Rhizomnium tumikoskii</i>								○	○		
93		コバナチョウチンゴケ	<i>Trachycystis microphylla</i>								○	○		
94	ヒノキゴケ科	ヒロハヒノキゴケ	<i>Pyrrhobryum spiniforme</i> var. <i>badakense</i>							○	○			
95	タマゴケ科	タマゴケ	<i>Bartramia pomiformis</i>						○		○			
96		カマサワゴケ	<i>Philonotis falcata</i>							○	○			
97		サワゴケ	<i>Philonotis fontana</i>								○	○		
98		ホウライサワゴケ	<i>Philonotis hastata</i>								○	○		
99		オオサワゴケ	<i>Philonotis turneriana</i>								○	○		
100		タチヒダゴケ科	タチヒダゴケ	<i>Orthotrichum consobrinum</i>							○	○		
101	タチバヒダゴケ		<i>Orthotrichum sordidum</i>							○	○			
102	カラフトキンモウゴケ		<i>Ulota crispa</i>								○	○		
103	カワゴケ科	カワゴケ	<i>Fontinalis hypnoides</i>						○		—			
104	コウヤノマンネングサ科	コウヤノマンネングサ	<i>Climacium japonicum</i>							○	○			
105	ヒジキゴケ科	ヒジキゴケ	<i>Hedwigia ciliata</i>							○	○			
106		シロヒジキゴケ	<i>Hedwigia ciliata</i>								○	—		
107	イトヒバゴケ科	ヒナイトゴケ	<i>Forsstroemia japonica</i>							○	○			
108	ムジナゴケ科	ノコギリゴケ	<i>Duthiella flaccida</i>								○	○		
109		マツムラゴケ	<i>Duthiella speciosissima</i>								○	○		
110	ヒラゴケ科	キダチヒラゴケ	<i>Homaliodendron flabellatum</i>								—			
111	オオトラノオゴケ科	ヤマトヒラゴケ	<i>Homalia trichomanoides</i> var. <i>japonica</i>								○	○		
112		チャボヒラゴケ	<i>Neckera humilis</i>								○	○		
113		エソヒラゴケ	<i>Neckera yezoana</i>								○	○		
114		キツネノオゴケ	<i>Thamnobryum alopecurum</i>								○	○		
115		キダチヒダゴケ	<i>Thamnobryum plicatum</i>								○	○		
116		オオトラノオゴケ	<i>Thamnobryum subseriatum</i>								○	○		
117	トラノオゴケ科	コクサゴケ	<i>Dolichomitriopsis diversiformis</i>								○	○		
118		ヒメコクサゴケ	<i>Isoetecium subdiversiforme</i>								○	○		
119	アブラゴケ科	ツガゴケ	<i>Distichophyllum maibarae</i>								○	○		
120		アブラゴケ	<i>Hookeria acutifolia</i>								○	○		
121	クジャクゴケ科	クジャクゴケ	<i>Hypopterygium Fauriei</i>								○	○		
122	ヒゲゴケ科	エダウロゴケモドキ	<i>Fauriella tenuis</i>						○		○	○		
123	コゴメゴケ科	オオヒメヒナゴケ	<i>Schwetschkeopsis robustula</i>								○	○		
124	ウスグロゴケ科	コシノウスグロゴケ	<i>Leskea polycarpa</i>								○	○		
125		ホソオカムラゴケ	<i>Okamuraea brachydietyon</i>									○		
126		オカムラゴケ	<i>Okamuraea hakoniensis</i>									○		
127		タチヤナギゴケ	<i>Orthamblystegium spurio-subtile</i>									○		
128		ヤマアサイトゴケ	<i>Pseudoleskeopsis tozana</i>									○		
129		アサイトゴケ	<i>Pseudoleskeopsis zippelii</i>									○		
130		ネジレイトゴケ	<i>Pterisynandrum filiforme</i>									○		
131		ウスグロゴケ科	キツネゴケ	<i>Rigodadiaphus robustus</i>							○		—	
132	シノブゴケ科		オオギボウシゴケモドキ	<i>Anomodon giraldii</i>							○	○		
133		エソイトゴケ	<i>Anomodon rugelii</i>								○	○		
134		チャボスズゴケ	<i>Boulaya mittenii</i>								○	○		
135		ハリゴケ	<i>Claopodium aciculium</i>								○	○		
136		マキハハリゴケ	<i>Claopodium assurgens</i>								○	○		

表 5.3-2 (3) 文献及び事業者の調査で確認された蘚苔類のリスト

No	綱名	科名	和名	学名	文献調査				事業者の調査 H19	調査地域 内外	
					1	2	3	4			
137	(蘚綱)	(シノブゴケ科)	フトハリゴケ	<i>Claopodium pellucinerve</i>					○	○	
138			ナガスジハリゴケ	<i>Claopodium prionophyllum</i>					○	○	
139			ノミハニワゴケ	<i>Haplocladium angustifolium</i>					○	○	
140			イワイトゴケ	<i>Haplohymenium triste</i>					○	○	
141			ラセンゴケ	<i>Herpetineuron toccoeae</i>					○	○	
142			ヒメシノブゴケ	<i>Thuidium cymbifolium</i>					○	○	
143			リュウキュウシノブゴケ	<i>Thuidium glaucinoides</i>					○	○	
144			トヤマシノブゴケ	<i>Thuidium kanedae</i>					○	○	
145			アオシノブゴケ	<i>Thuidium pristocalyx</i>					○	○	
146			ミジンコシノブゴケ	<i>Thuidium pygmaeum</i>					○	○	
147			コバノエゾシノブゴケ	<i>Thuidium recognitum</i> var. <i>delicatulum</i>					○	○	
148			チャボシノブゴケ	<i>Thuidium sparsifolium</i>					○	○	
149			ヤナギゴケ科	コガネハイゴケ	<i>Campyladielphus chrysonphyllus</i>					○	○
150				ミスシダゴケ	<i>Cratoneuron filicinum</i>					○	○
151	アオギヌゴケ科	ヤナギゴケ	<i>Leptodictyum riparium</i>					○	○		
152		アラハヒツジゴケ	<i>Brachythecium brotheri</i>					○	○		
153		ナガヒツジゴケ	<i>Brachythecium buchananii</i>					○	○		
154		コマノヒツジゴケ	<i>Brachythecium coreanum</i>					○	○		
155		ヒモヒツジゴケ	<i>Brachythecium helminthocladum</i>					○	○		
156		クロイシヒツジゴケ	<i>Brachythecium kuroishicum</i>					○	○		
157		ハネヒツジゴケ	<i>Brachythecium plumosum</i>					○	○		
158		アオギヌゴケ	<i>Brachythecium populeum</i>					○	○		
159		ツヤヒツジゴケ	<i>Brachythecium pulchellum</i>					○	○		
160		タニゴケ	<i>Brachythecium rivulare</i>					○	○		
161		ヒロハノフサゴケ	<i>Brachythecium rutabulum</i>					○	○		
162		アラスカヤノネゴケ	<i>Bryhnia hultenii</i>					○	○		
163		ヤノネゴケ	<i>Bryhnia novae-angliae</i>					○	○		
164		ヒメヤノネゴケ	<i>Bryhnia tenerima</i>					○	○		
165	エソヤノネゴケ	<i>Bryhnia tokubuchii</i>					○	○			
166	オニヒツジゴケ	<i>Eurhynchium eustegium</i>					○	○			
167	ツクシナギゴケモドキ	<i>Eurhynchium hians</i>					○	○			
168	ツクシナギゴケ	<i>Eurhynchium savatieri</i>					○	○			
169	アツフサゴケ	<i>Homalothecium laevisetum</i>					○	○			
170	ネズミノオゴケ	<i>Myuroclada maximoviczii</i>					○	○			
171	アツフサゴケモドキ	<i>Palamocladium leskeoides</i>					○	○			
172	サイシュウテングゴケ	<i>Rhynchostegium contractum</i>					○	○			
173	カヤゴケ	<i>Rhynchostegium inclinatum</i>					○	○			
174	コカヤゴケ	<i>Rhynchostegium pallidifolium</i>					○	○			
175	アオハイゴケ	<i>Rhynchostegium riparioides</i>					○	○			
176	ツヤゴケ科	エダツヤゴケ	<i>Entodon flavescens</i>					○	○		
177		ホソミツヤゴケ	<i>Entodon sullivantii</i>					○	○		
178	サナダゴケ科	エゾノヒラツボゴケ	<i>Isopterygiopsis muelleriana</i>					○	○		
179		マルフサゴケ	<i>Plagiothecium caviifolium</i>					○	○		
180		オオサナダゴケモドキ	<i>Plagiothecium euryphyllum</i>					○	○		
181		ミヤマサナダゴケ	<i>Plagiothecium nemorale</i>					○	○		
182	ナガハシゴケ科	カガミゴケ	<i>Brotherella henonii</i>					○	○		
183		コモチイトゴケ	<i>Pyloisialpha tenuirostris</i>					○	○		
184	ハイゴケ科	クサゴケ	<i>Callicladium haldanianum</i>					○	○		
185		ヒメクシノハゴケ	<i>Ctenidium andoi</i>					○	○		
186		クシノハゴケ	<i>Ctenidium capillifolium</i>					○	○		
187		オニクシノハゴケ	<i>Ctenidium percrassum</i>					○	○		
188		イボエクシノハゴケ	<i>Ctenidium pulchellum</i>					○	○		
189		ヤマトキヌタゴケ	<i>Homomallium japonico-adnatum</i>					○	○		
190		ハイヒバゴケ	<i>Hypnum cupressiforme</i>					○	○		
191		ヒラハイゴケ	<i>Hypnum erectiusculum</i>					○	○		
192		フジハイゴケ	<i>Hypnum fujiyamae</i>					○	○		
193		エソハイゴケ	<i>Hypnum lindbergii</i>					○	○		
194		ヒメハイゴケ	<i>Hypnum oldhamii</i>					○	○		
195		ハイゴケ	<i>Hypnum plumaeforme</i>					○	○		
196		オオベニハイゴケ	<i>Hypnum sakuraii</i>					○	○		
197		ヤマハイゴケ	<i>Hypnum subimponens</i> subsp. <i>ulophyllum</i>					○	○		
198	アカイチイゴケ	<i>Pseudotaxiphyllum pohliaecarpum</i>					○	○			
199	アオモリサナダゴケ	<i>Taxiphyllum aomoriense</i>					○	○			
200		キヤラハゴケ	<i>Taxiphyllum taxirameum</i>					○	○		
201	イワダレゴケ科	シノブハゴケ	<i>Hylacomiastrum himalayanaum</i>					○	○		
202		ミヤマリュウビゴケ	<i>Hylacomiastrum pyrenaicum</i>					○	○		
203		フトリュウビゴケ	<i>Loeskeobryum caviifolium</i>					○	○		
204		コフサゴケ	<i>Rhytidiadelphus japonicus</i>					○	○		

表 5.3-2(4) 文献及び事業者の調査で確認された蘚苔類のリスト

No	綱名	科名	和名	学名	文献調査				事業者の調査 H19	調査地域 内外	
					1	2	3	4			
205	苔綱	キリシマゴケ科	キリシマゴケ	<i>Herbertus aduncus</i>						○	○
206		マツバウロコゴケ科	チャボマツバウロコゴケ	<i>Blepharostoma minus</i>						○	○
207		ムチゴケ科	コムチゴケ	<i>Bazzania tridens</i>						○	○
208			コスギバゴケ	<i>Kurzia maki-noana</i>						○	○
209		ツキシキゴケ科	チャボホラゴケモドキ	<i>Calypogeia arguta</i>						○	○
210			フソウツキシキゴケ	<i>Calypogeia japonica</i>						○	○
211			トサホラゴケモドキ	<i>Calypogeia tosona</i>				○	○	○	○
212		ヤバネゴケ科	カタヤバネゴケ	<i>Cephalozia catenulata</i> subsp. <i>nipponica</i>						○	○
213			オタルヤバネゴケ	<i>Cephalozia otaruensis</i>				○	○	○	○
214			ニシムラヤバネゴケ	<i>Hygrobiella nishimurae</i>						○	○
215			クチキゴケ	<i>Odontoschisma denudatum</i>						○	○
216		コヤバネゴケ科	ウニヤバネゴケ	<i>Cephaloziella spinicaulis</i>						○	○
217		ツボミゴケ科	エソツボミゴケ	<i>Jungermannia atrovirens</i>						○	○
218			ツムウロコゴケ	<i>Jungermannia fusiformis</i>						○	○
219			オオホウキゴケ	<i>Jungermannia infusca</i>				○	○	○	—
220			ハイツボミゴケ	<i>Jungermannia infusca</i> var. <i>ovalifolia</i>						○	○
221			ヒメツボミゴケ	<i>Jungermannia japonica</i>						○	○
222			ツツソレイゴケ	<i>Jungermannia subulata</i>						○	○
223			ツクシツボミゴケ	<i>Jungermannia truncata</i>						○	○
224			キブリツボミゴケ	<i>Jungermannia virgata</i>						○	○
225			アカウロコゴケ	<i>Nardia assamica</i>						○	○
226		ミノゴケ科	タカネミノゴケ	<i>Marsipella emarginata</i> subsp. <i>tubulosa</i>						○	○
227		ヒシヤクゴケ科	シロコオイゴケ	<i>Diplophyllum albicans</i>						○	○
228			マルバコオイゴケ	<i>Diplophyllum obtusifolium</i>						○	○
229			シタバヒシヤクゴケ	<i>Scapania ligulata</i>						○	○
230		ウロコゴケ科	エソトサカゴケ	<i>Chiloscyphus japonicus</i>						○	○
231			ヒメトサカゴケ	<i>Chiloscyphus minor</i>				○	○	○	○
232		スケバウロコゴケ	<i>Chiloscyphus pallascens</i>						○	○	
233		フシウロコゴケ	<i>Chiloscyphus polyanthos</i>				○	○	○	○	
234		トサカゴケ	<i>Chiloscyphus profundus</i>						○	○	
235		ウロコゴケ	<i>Heteroscyphus argutus</i>				○	○	○	—	
236		オオウロコゴケ	<i>Heteroscyphus coalitus</i>				○	○	○	○	
237		ツクシウロコゴケ	<i>Heteroscyphus planus</i>				○	○	○	○	
238	ハネゴケ科	マルバハネゴケ	<i>Plagiochila ovalifolia</i>				○	○	○	○	
239		コハネゴケ	<i>Plagiochila sciophila</i>				○	○	○	○	
240	ケビラゴケ科	クビレケビラゴケ	<i>Radula constricta</i>				○	○	○	○	
241		ヤマトケビラゴケ	<i>Radula japonica</i>				○	○	○	○	
242		シゲリケビラゴケ	<i>Radula javanica</i>				○	○	○	○	
243		コウヤケビラゴケ	<i>Radula kojana</i>				○	○	○	○	
244	クラマゴケモドキ科	チヂミカヤゴケ	<i>Macvicaria ulophylla</i>						○	○	
245		ヒメクラマゴケモドキ	<i>Porella caespitans</i> var. <i>cordifolia</i>						○	○	
246		カギクラマゴケモドキ	<i>Porella caespitans</i> var. <i>nipponica</i>						○	○	
247		シゲリクラマゴケモドキ	<i>Porella densifolia</i> var. <i>fallax</i>				○	○	○	○	
248		オオクラマゴケモドキ	<i>Porella grandiloba</i>						○	○	
249		ヤマトクラマゴケモドキ	<i>Porella japonica</i>				○	○	○	—	
250		クラマゴケモドキ	<i>Porella perrottetiana</i>				○	○	○	○	
251		ニスビキカヤゴケ	<i>Porella vernicosa</i>						○	○	
252	ヤスデゴケ科	アカヤスデゴケ	<i>Frullania davurica</i>				○	○	○	○	
253		ミドリヤスデゴケ	<i>Frullania ericoides</i>						○	○	
254		カギヤスデゴケ	<i>Frullania hamatiloba</i>						○	○	
255		カラヤスデゴケ	<i>Frullania muscicola</i>						○	○	
256	ヒメウルシゴケ科	ジャバウルシゴケ	<i>Jubula hutchinsiae</i> subsp. <i>javanica</i>						○	○	
257		ヒメウルシゴケ	<i>Jubula japonica</i>				○	○	○	○	
258	クサリゴケ科	イボケクサリゴケ	<i>Cololejeunea denticulata</i>						○	○	
259		ヒメクサリゴケ	<i>Cololejeunea longifolia</i>				○	○	○	○	
260		チカシマヒメクサリゴケ	<i>Cololejeunea nakajimae</i>						○	○	
261		サワクサリゴケ	<i>Lejeunea aquatica</i>				○	○	○	○	
262		カマハコミミゴケ	<i>Lejeunea discreta</i>						○	○	
263		ヤマトコミミゴケ	<i>Lejeunea japonica</i>						○	○	
264		イトコミミゴケ	<i>Lejeunea parva</i>						○	○	
265		カビゴケ	<i>Leptolejeunea elliptica</i>						○	○	
266	ミズゼニゴケ科	ホソバミズゼニゴケ	<i>Pellia endiviifolia</i>				○	○	○	○	
267		ミズゼニゴケ	<i>Pellia epiphylla</i>		○				○	—	
268		エソミズゼニゴケ	<i>Pellia neesiana</i>						○	○	
269	マキノゴケ科	マキノゴケ	<i>Makinoa crispata</i>						○	○	
270	クモノスゴケ科	クモノスゴケ	<i>Pallavicinia subciliata</i>		○			○	○	○	
271	ウスバゼニゴケ科	ウスバゼニゴケ	<i>Blasia pusilla</i>						○	○	
272		ジャクシゴケ	<i>Cavicularia densa</i>						○	○	

表 5.3-2(5) 文献及び事業者の調査で確認された蘚苔類のリスト

No	綱名	科名	和名	学名	文献調査					事業者の調査 H19	調査地域 内外	
					1	2	3	4				
273	(苔綱)	スジゴケ科	ナミガタスジゴケ	<i>Riccardia chamedryfolia</i>							○	○
274			キテングサゴケ	<i>Riccardia flavovirens</i>							○	○
275			クシノハスジゴケ	<i>Riccardia multifida</i> subsp. <i>decrescens</i>							○	○
276			ナガサキテングサゴケ	<i>Riccardia nagasakiensis</i>							○	○
277			モミジスジゴケ	<i>Riccardia palmata</i>							○	○
278		フタマタゴケ科	ヒメフタマタゴケ	<i>Metzgeria decipiens</i>					○	○		—
279			ヤマトフタマタゴケ	<i>Metzgeria lindbergii</i>							○	○
280			コモチフタマタゴケ	<i>Metzgeria temperata</i>				○	○		○	○
281		ジャゴケ科	ジャゴケ	<i>Conocephalum conicum</i>	○						○	○
—			I型 オオジャゴケ	<i>Conocephalum conicum</i>					○	○		—
—	T型 オオジャゴケ		<i>Conocephalum conicum</i>					○	○		—	
282	ヒメジャゴケ		<i>Conocephalum japonicum</i>							○	○	
283	アズマゼニゴケ科		アズマゼニゴケ	<i>Wiesnerella denudata</i>					○	○		—
284		ケゼニゴケ	<i>Dumortiera hirsuta</i>					○	○		○	
285	ジンガサゴケ科	ジンガサゴケ	<i>Reboulia hemisphaerica</i> subsp. <i>orientalis</i>					○	○		○	
286		ゼニゴケ	<i>Marchantia polymorpha</i>	○						○	○	
287		トサノゼニゴケ	<i>Marchantia emarginata</i> subsp. <i>tosana</i>							○	○	
288	ウキゴケ科	ツヤゼニゴケ	<i>Marchantia paleacea</i>							○	○	
289		フタバネゼニゴケ	<i>Marchantia paleacea</i> subsp. <i>diptera</i>							○	○	
290		コハタケゴケ	<i>Riccia huebeneriana</i>							○	○	
291		イチョウウキゴケ	<i>Ricciocarpos natans</i>	○						○	○	
292	ツノゴケ綱	ツノゴケ科	アナナシツノゴケ	<i>Megaceros flagellaris</i>						○	○	
293			ニワツノゴケ	<i>Phaeoceros carolinianus</i>							○	○
294			ミヤケツノゴケ	<i>Phaeoceros laevis</i>							○	○
合計 7綱67科294種					49科144種					65科262種	65科262種	

(出典)

- 文献1：美山町史 上巻(美山町史編さん委員会 昭和59年9月)
- 文献2：福井市立郷土自然科学博物館資料目録(2) 植物標本総合目録(福井市立郷土自然科学博物館 昭和48年3月)
- 文献3：福井陸水生物会報1号(福井陸水生物研究会 昭和55年3月)
- 文献4：福井総合植物園紀要(福井総合植物園 平成16年3月)

(分類体系)

- ・「日本の野生植物 コケ(岩月善之助 平成13年2月)」に従った。
- ・確認された種のうち、他の種と重複する可能性がある種は種数の合計から除いた。

(調査地域内外)

- ：調査地域内で確認
- ×：調査地域外のみで確認
- ：現地調査では未確認

表 5.3-3 文献及び事業者の調査で確認された蘚苔類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由			
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d
1	ホウオウゴケ科	ジョウレンホウオウゴケ	●	●			Ⅱ類	
2	カワゴケ科	カワゴケ	●				Ⅱ類	
3	カビゴケ科	カビゴケ		●			Ⅱ類	
4	ウキゴケ科	イチョウウキゴケ	●	●			準絶	
4科4種			3種	3種	0種	0種	4種	0種

注)1. 調査地域

文献調査：自然的状況の調査範囲(図 4-1) (文献によっては市町村、地形、メッシュの単位で生育種が示されているものがあるため、調査範囲外の生育種が含まれている可能性がある。)

事業者の調査：自然的状況の調査範囲(図 5.3-1)

2. 分類体系

原則として「日本の野生植物 コケ(岩月善之助 平成 13 年 2 月)」に従った。

3. 選定理由

a: 文化財保護法に基づき指定された天然記念物及び特別天然記念物、福井県文化財保護条例、福井市文化財保護条例、池田町文化財保護条例に基づき指定された天然記念物

b: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づき定められた国内希少野生動植物種及び緊急指定種

c: 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成 19 年 8 月)」掲載種

Ⅱ類: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。(絶滅危惧Ⅰ類: 絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの))

準絶: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

d: その他専門家により指摘された重要な種

5.4 その他の植物(大型菌類)

5.4.1 調査項目

(1) 大型菌類相調査

大型菌類相調査は、文献及び事業者の調査により実施した。

(2) 重要な種の調査

重要な種の調査は、文献及び事業者の調査により実施した。重要な種にかかる事業者の調査は、大型菌類相調査及び大型菌類の重要な種の調査とした。

重要な種の選定結果は表 5.4-4 に示すとおりである。

5.4.2 調査方法

(1) 文献調査

1) 調査対象文献

調査対象文献は以下に示すとおりとした。

文献 1：美山町史 上巻(美山町史編さん委員会 昭和 59 年 9 月)

2) 調査地域

調査地域は、図 4-1 に示す地域の自然的状況の調査範囲とした。ただし、文献によっては市町村、地形、メッシュの単位で生育種が示されているものがあるため、調査範囲外の生育種が含まれている可能性がある。

(2) 事業者の調査

1) 大型菌類相調査

① 調査方法

現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析によった。現地調査の手法、内容及び実施状況を表 5.4-1 に示す。

② 調査地域

調査地域は自然的状況の調査範囲とした。調査地点は、生育種の状況、重要な種の分布、生育の状況、生育環境を適切かつ効率的に把握できる地点及び経路とした。調査地域、調査地点及び調査経路を図 5.4-1 に示す。

③ 調査期間等

現地調査の調査期間、時期は表 5.4-1 に示すとおりであり、調査時期は植物の生態の特性を踏まえ、さらに、確認の容易さ等を勘案して設定した。

表 5. 4-1 大型菌類相の現地調査の手法、内容及び実施状況

項目	内容					
調査すべき情報	大型菌類(大型菌類相)					
調査地域・調査地点	自然的状況の調査範囲(図 5. 4-1 参照)					
現地調査の内容	1. 任意採集 調査地域を踏査し、確認した大型菌類を採取した。					
調査期間・調査時期	調査年度	調査時期				現地調査手法
		春季	夏季	秋季	冬季	
	平成 19 年度	—	6/25～29	9/30 10/1～5	—	大型菌類相調査 1. 任意採集

2) 重要な種の調査

① 調査方法

現地調査の情報により、分布、生育の状況及び生育環境の情報を整理、解析した。現地調査の基本的な手法は表 5. 4-2 に示す現地調査の手法及び現地調査の内容とした。

② 調査地域

大型菌類の重要な種の調査地域は、自然的状況の調査範囲とした。

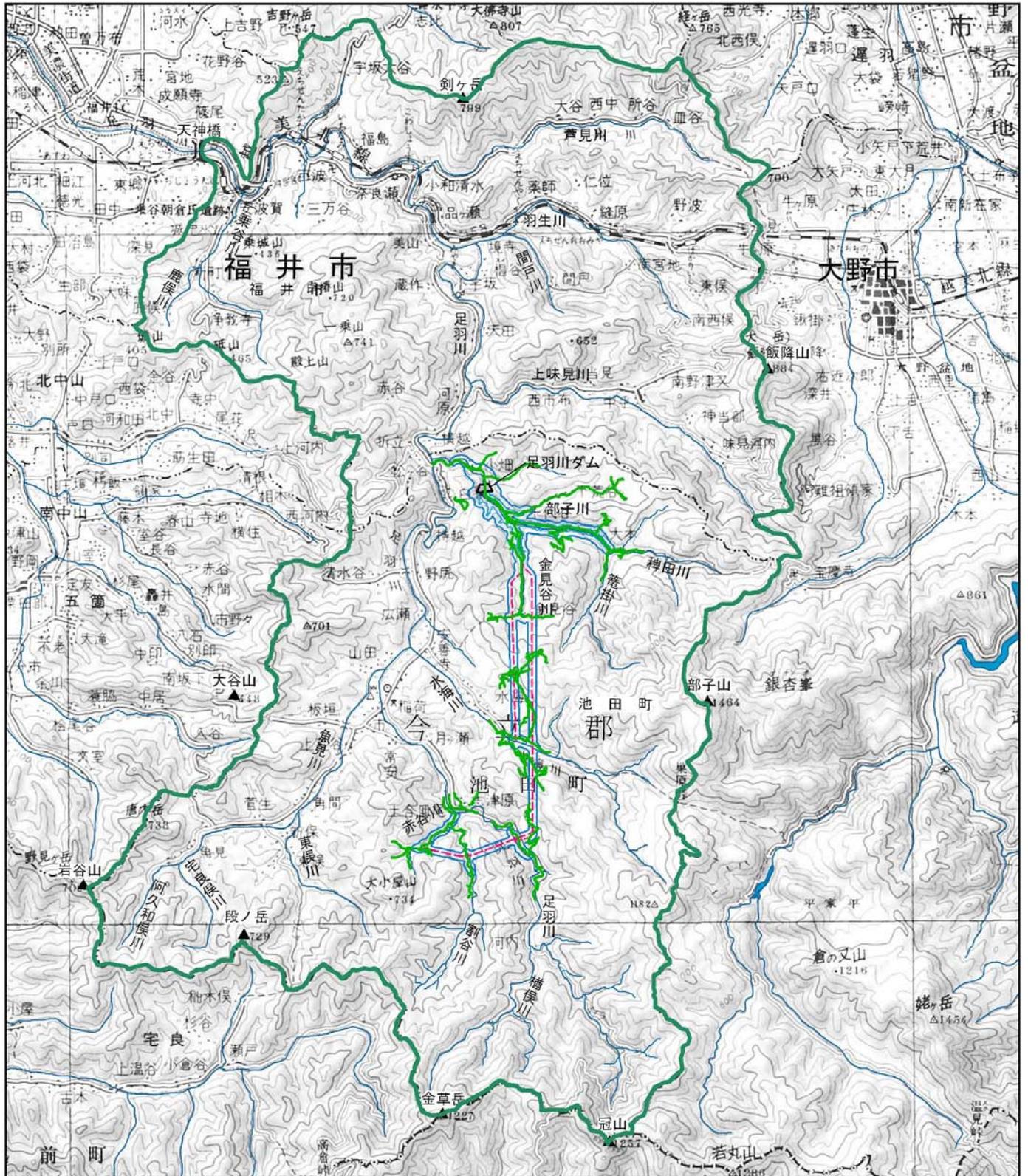
調査地点は重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況を適切かつ効率的に把握できる調査地点及び経路とした。調査地域、調査地点及び調査経路を図 5. 4-2 に示す。

③ 調査期間等

現地調査の調査期間、時期は、植物の生態の特性を踏まえ、調査対象種の確認の容易さ等を勘案し設定した。現地調査の実施状況を表 5. 4-2 に示す。

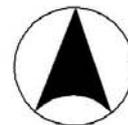
表 5. 4-2 大型菌類の重要な種の現地調査の手法、内容及び実施状況

項目	内容					
調査すべき情報	大型菌類の重要な種					
調査地域・調査地点	自然的状況の調査範囲(図 5. 4-2)					
現地調査の内容	1. 任意採集 調査地域を踏査し、目視観察により大型菌類の重要な種を確認した。					
調査期間・調査時期	調査年度	調査時期				現地調査手法
		春季	夏季	秋季	冬季	
	平成 19 年度	—	—	9/30 10/1～5	—	マツタケを対象 とした調査 1. 任意採集



凡 例

- ▲ : ダム堤体
- (with blue border) : ダム洪水調節地
- - - (with red border) : 導水施設予定地
- (with blue border) : 対象事業実施区域
- (with green border) : 自然的状況の調査範囲
- (with double line) : 県界
- - - (with dash-dot line) : 市町村界
- (with single line) : 河川
- (green line) : 調査経路



Scale 1 : 150,000

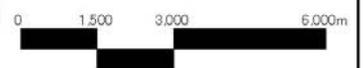
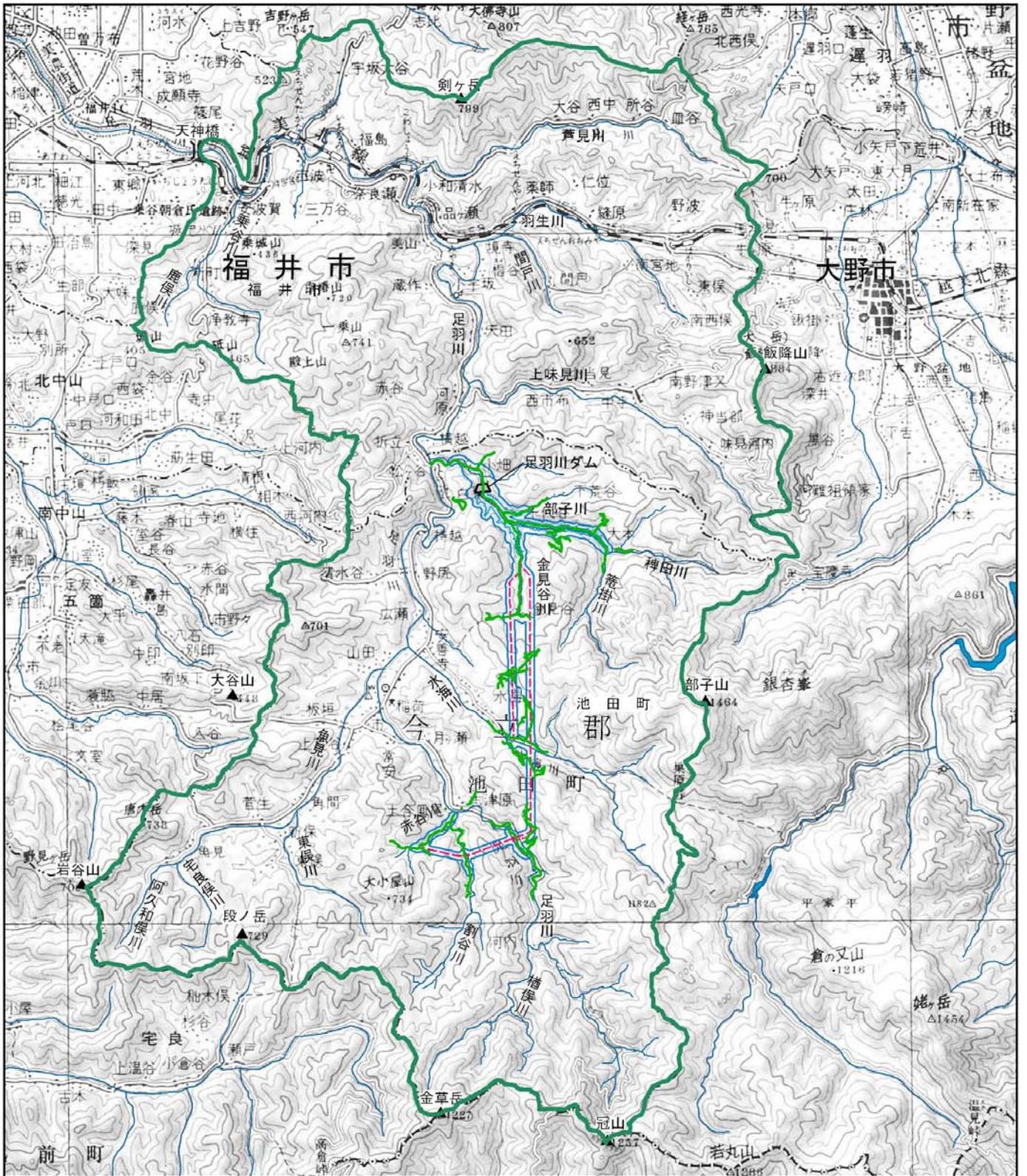


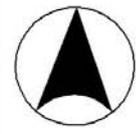
図 5.4-1
大型菌類既往調査地点
(大型菌類相調査)



凡 例

-  : ダム堤体
-  : ダム洪水調節地
-  : 導水施設予定地
-  : 対象事業実施区域
-  : 自然的状況の調査範囲
-  : 県界
-  : 市町村界
-  : 河川

— 調査経路



Scale 1 : 150,000



図 5.4-2
大型菌類既往調査地点
(重要な種調査)

5.4.3 調査結果

大型菌類の確認種リストを表 5.4-3 に、重要な種リストを表 5.4-4 に示す。

表 5.4-3(1) 文献及び事業者の調査で確認された大型菌類のリスト

No.	亜門名	目名	科名	和名	学名	文献調査	事業者の調査	
1	分生子果不完全菌類 子囊菌亜門	スティルベラ目	スティルベラ科	クモタケ	<i>Nomuraea atypicola</i>	1	H19	
2		オストロバ目	オストロバ科	アポステミディウム属の一種 (和名なし)	<i>Apostemidium fiscellum</i>		○	
3		ズキンタケ目	ズキンタケ科	ニセキンカクアカビョウタケ	<i>Docephalospora rufocornea</i>		○	
4				キノコアキンカクキン属の一種	<i>Ciboria</i> sp.		○	
5				クリノイガワタケ属の一種	<i>Lanzia</i> sp.		○	
6				ニセキンカクキン属の一種 (和名なし)	<i>Ciborinia gracilipes</i>		○	
7		オルピリア科		ヒアリニア属の一種 (和名なし)	<i>Hyalinia rubella</i>		○	
8				ヒイロニカワタケ	<i>Orbilis coccinea</i>		○	
9				ハイイロクズチャワタケ科	ハイイロクズチャワタケ	<i>Mollisia cinerea</i>		○
10				カティネルラ属の一種	<i>Catinella</i> sp.		○	
11				デルメア属の一種	<i>Dermea</i> sp. 1		○	
12				デルメア属の一種 2	<i>Dermea</i> sp. 2		○	
13				ニフテラ属の一種	<i>Niptera</i> sp.		○	
14				タペシア属の一種	<i>Tapesia</i> sp.		○	
15		ヒナノチャワタケ科		キイロケヒナノチャワタケ	<i>Lachnum mollissimum</i>		○	
16				シロヒメチャワタケ	<i>Lachnum diminutum</i>		○	
17				シロヒナノチャワタケ属の一種 (和名なし)	<i>Lachnum abnorme</i>		○	
18				ダシスキフェルラ属の一種 (和名なし)	<i>Dasyyscyphella longistipitata</i>		○	
19		ズキンタケ科		クロソブレニウム属の一種 (和名なし)	<i>Chlorosplenium chlora</i>		○	
20				ゲラティニブルウィネルラ属の一種 (和名なし)	<i>Gelatinipulvinella astraeicola</i>		○	
21				ニセビョウタケ	<i>Hymenoscyphus scutula</i>		○	
22				ヒメニセビョウタケ	<i>Hymenoscyphus repandus</i>		○	
23				ニセビョウタケ属の一種 1 (和名なし)	<i>Hymenoscyphus caudatus</i>		○	
24				ニセビョウタケ属の一種 2 (和名なし)	<i>Hymenoscyphus herbarum</i>		○	
25				ニセビョウタケ属の一種 3 (和名なし)	<i>Hymenoscyphus varicosporoides</i>		○	
26				ニセビョウタケ属の一種 4	<i>Hymenoscyphus</i> sp. 4		○	
27				ゴドゥロニア属の一種	<i>Godronia</i> sp.		○	
28				コケイロサラダケ	<i>Chlorenchocelia versiformis</i>		○	
29		モエギビョウタケ	<i>Bisporella sulfurina</i>		○			
30		ズキンタケ	<i>Leotia lubrica</i>		○			
31		ムラサキゴムタケ	<i>Ascocoryne cylichnium</i>		○			
32		ロクショウグサレキン	<i>Chlorociboria aeruginosa</i>		○			
33		ファキジウム目	リティスマ科	マツノハフルイビョウキン属の一種 (和名なし)	<i>Lophodermium iwatense</i>		○	
34		チャワタケ目	クロチャワタケ科	オオゴムタケ	<i>Galiella celebica</i>		○	
35			ベニチャワタケ科	シロキツネノサカズキ	<i>Microstoma floccosum</i>		○	
36				ヨソオイチャワタケ	<i>Sarcoscypha vassilievae</i>		○	
37			スライカビ科	イバリスライカビ	<i>Ascobolus denudatus</i>		○	
38			チャワタケ科	カバイロチャワタケ属の一種 (和名なし)	<i>Pachyella babingtonii</i>		○	
39				フジイロチャワタケ	<i>Peziza michelii</i>		○	
40			ノボリリュウ科	ナガエノチャワタケ	<i>Helvella macropus</i>		○	
41			ピロネマキン科		ハリケシロヒメフンタケ	<i>Lasibolus ciliatus</i>		○
42					ケイリメニア属の一種 (和名なし)	<i>Cheilimenia fimicola</i>		○
43					アラゲコベニチャワタケ属の一種 (和名なし)	<i>Scutellinia kerguelensis</i>		○
44					アラゲコベニチャワタケ属の一種 2	<i>Scutellinia</i> sp. 2		○
45					ヤフネア属の一種 (和名なし)	<i>Jafnea fusicarpa</i>		○
46					コプロツス属の一種 (和名なし)	<i>Coprotus marginatus</i>		○
47			バツカクキン目	バツカクキン科	カメムシタケ	<i>Cordyceps nutans</i>		○
48			ニクザキン目	ニクザキン科	ボタンタケ属の一種 1 (和名なし)	<i>Hypocrea luteovirens</i>		○
49					ボタンタケ属の一種 2 (和名なし)	<i>Hypocrea rufa</i>		○
50					ボタンタケ属の一種 3	<i>Hypocrea</i> sp. 1		○
51		ボタンタケ属の一種 4			<i>Hypocrea</i> sp. 2		○	
52		アカツブタケ属の一種 1 (和名なし)			<i>Nectria epishaeria</i>		○	
53		アカツブタケ属の一種 2			<i>Nectria</i> sp. 2		○	
54		カエンタケ			<i>Podostroma cornu-damae</i>		○	
55		ヒボミケス科			タケリタケ属の一種 1 (和名なし)	<i>Hypomyces luteovirens</i>		○
56					タケリタケ属の一種 2 (和名なし)	<i>Hypomyces chrysospermus</i>		○
57		クロサイワイタケ目			クロサイワイタケ科	マメザヤタケ	<i>Xylaria polymorpha</i>	
58			コプリノマメザヤタケ	<i>Xylaria cubensis</i>			○	
59			ブナノホソツクシタケ	<i>Xylaria carpophila</i>			○	
60			クロサイワイタケ属の一種 1 (和名なし)	<i>Xylaria filiformis</i>			○	

表 5.4-3(2) 文献及び事業者の調査で確認された大型菌類のリスト

No.	亜門名	目名	科名	和名	学名	文献調査	事業者の調査		
61	(子囊菌亜門)	(クロサイワイタケ目)	(クロサイワイタケ科)	クロサイワイタケ属の一種2 (和名なし)	<i>Xylaria juruensis</i>	1	H19		
62				ヒメアカコブタケ	<i>Hypoxyton howeanum</i>		○		
63				オオミコブタケ	<i>Ustulina deusta</i>		○		
64				カタツバタケ属の一種	<i>Rosellinia</i> sp.		○		
65				シトネタケ	<i>Diatrype stigma</i>		○		
66				ニチュキア目	ニチュキア科	ベルティア属の一種 (和名なし)	<i>Bertia moriformis</i>		○
67					ロウタケ科	ロウタケ	<i>Sebacina incrustans</i>		○
68	担子菌亜門	シロキクラゲ目	シロキクラゲ科	コガネニカワタケ	<i>Tremella mesenterica</i>		○		
69				ハナヒラニカワタケ	<i>Tremella foliacea</i>		○		
70				アラクキクラゲ	<i>Auricularia polytricha</i>		○		
71		キクラゲ目	キクラゲ科	ツブキクラゲ	<i>Tremellochaete japonica</i>		○		
72				ヒメキクラゲ属の一種 (和名なし)	<i>Exidia thuretiana</i>		○		
73				ニカワハリタケ	<i>Pseudohydnum gelatinosum</i>		○		
74		アカキクラゲ目	アカキクラゲ科	ツノフノリタケ	<i>Calocela cornea</i>		○		
75				ニカワホウキタケ	<i>Calocera viscosa</i>		○		
76				ツノマダタケ	<i>Guepinia spatulata</i>		○		
77				モモイロダクリオキ	<i>Dacrymyces roseotinctus</i>		○		
78				アンズタケ科	アンズタケ	<i>Cantharellus cibarius</i>		○	
79					ベニウスタケ	<i>Cantharellus cinnabarinus</i>		○	
80					ミキイロウスタケ	<i>Cantharellus infundibuliformis</i>		○	
81					アンズタケ属の一種 (和名なし)	<i>Cantharellus</i> sp. 1		○	
82				カレエダタケ科	カレエダタケモドキ	<i>Clavulina rugosa</i>		○	
83					カレエダタケ属の一種 (和名なし)	<i>Clavulina</i> cf. <i>vinaceocervina</i>		○	
84				シロソウメンタケ科	ベニナギナタタケ	<i>Clavaria aurantio-cinnabarina</i>		○	
85					シラウオタケ	<i>Multiclavula mucida</i>		○	
86					クラウリノフシス属の一種 (和名なし)	<i>Clavariopsis umbrinella</i>		○	
87					ナギナタタケ	<i>Ramariopsis fusiformis</i>		○	
88					キノソウメンタケ	<i>Ramariopsis helvola</i>		○	
89		シロヒメホウキタケ	<i>Ramariopsis kuntzei</i>			○			
90		カノシタ科	カノシタ		<i>Hydnum repandum</i>		○		
91		フサヒメホウキタケ科	フサヒメホウキタケ	<i>Clavicornia pyxidata</i>		○			
92			フサヒメホウキタケ属の一種 (和名なし)	<i>Clavicornia colensoi</i>		○			
93		ミミナミハタケ科	イタチナミハタケ	<i>Lentinellus ursinus</i>		○			
94		ホウキタケ科	ウスカワホウキタケ	<i>Ramaria ephemeroderma</i>		○			
95			ホウキタケ属の一種 (和名なし)	<i>Ramaria cokeri</i>		○			
96			ホウキタケ属の一種 1	<i>Ramaria</i> sp. 1		○			
97			ホウキタケ属の一種 2	<i>Ramaria</i> sp. 2		○			
98		イボタケ科	ボタンイボタケ	<i>Thelephora aurantiotincta</i>		○			
99			イボタケ属の一種	<i>Thelephora</i> sp.		○			
100		ヒダナシタケ目	コウヤクタケ科	カミウロコタケ	<i>Lopharia crassa</i>		○		
101				ケシウロコタケ	<i>Punctularia strigoso-zonata</i>		○		
102				サガリハリタケ	<i>Radulodon copelandii</i>		○		
103				ウロコオクバタケ	<i>Basidioradulum radula</i>		○		
104				カミウロコタケ	<i>Lopharia crassa</i>		○		
105				カワタケ	<i>Peniophora manshurica</i>		○		
106				シミレウロコタケ	<i>Laeticorticium roseocarneum</i>		○		
107				コガネシウロコタケ属の一種	<i>Phlebia</i> sp.		○		
108				ウロコタケ科	キウロコタケ	<i>Stereum hirsutum</i>		○	
109					チャウロコタケ	<i>Stereum ostrea</i>		○	
110	シミダシカタウロコタケ				<i>Stereum rugosum</i>		○		
111	チウロコタケモドキ				<i>Stereum sanguinolentum</i>		○		
112	イドタケ科			イドタケ属の一種	<i>Coniophora</i> sp.		○		
113				シワタケ	<i>Merulius tremellosus</i>		○		
114	タチウロコタケ科			ハナウロコタケ	<i>Stereopsis burtianum</i>		○		
115	スエヒロタケ科	スエヒロタケ	<i>Schizophyllum commune</i>		○				
116	タコウキン科	アナタケ	<i>Schizopora flavipora</i>		○				
117		シツクイタケ	<i>Antrodiella gypsea</i>		○				
118		アミスギタケ	<i>Polyporus arcularius</i>		○				
119		キノハダアシグロタケ	<i>Polyporus tubaeformis</i>		○				
120		ハチノスタケ	<i>Polyporus alveolaris</i>		○				

表 5.4-3(3) 文献及び事業者の調査で確認された大型菌類のリスト

No.	亜門名	目名	科名	和名	学名	文献調査	事業者の調査				
121	(担子菌亜門)	(ヒダナンタケ目)	(タコウキン科)	カボチャタケ	<i>Pycnoporellus fulgens</i>	1	H19				
122				ヤケイロタケ	<i>Bjerkandera adusta</i>		○				
123				ツリガネタケ	<i>Fomes fomentarius</i>		○				
124				オシロイタケ	<i>Tyromyces chioneus</i>		○				
125				アケボノオシロイタケ	<i>Tyromyces incarnates</i>		○				
126				マイタケ	<i>Grifola frondosa</i>		○				
127				シミタケ	<i>Oligoporus fragilis</i>		○				
128				シミタケ属の一種 (和名なし)	<i>Oligoporus floriformis</i>		○				
129				ヒメシロカイメンタケ	<i>Oxporus cuneatus</i>		○				
130				イロツキタケ	<i>Spongipellis delectans</i>		○				
131				シカタケ	<i>Datronia mollis</i>		○				
132				シハイタケ	<i>Trichaptum abietinum</i>		○				
133				ハカワラタケ	<i>Trichaptum bifforme</i>		○				
134				チャカイガラタケ	<i>Daedaleopsis tricolor</i>		○				
135				カイガラタケ	<i>Lenzites betulinus</i>		○				
136				ツヤウチワタケ	<i>Microporus vernicipes</i>		○				
137				アラガカワラタケ	<i>Trametes hirsta</i>		○				
138				カワラタケ	<i>Trametes versicolor</i>		○				
139				ホウロクタケ	<i>Trametes diskinsii</i>		○				
140				ミダレアミタケ	<i>Cerrena unicolor</i>		○				
141				ミイロアミタケ	<i>Daedaleopsis purpurea</i>		○				
142				ヒトクチタケ	<i>Cryptoporus volvatus</i>		○				
143				ニッケイタケ	<i>Coltricia cinnamomea</i>		○				
144				マンネンタケ科	オオミノコフキタケ	<i>Ganoderma australe</i>		○			
145				タバコウロコタケ科	ネンドタケ	<i>Phellinus gilvus</i>		○			
146					ネンドタケモドキ	<i>Phellinus setifer</i>		○			
147					ダイダイタケ	<i>Inonotus xeranticus</i>		○			
148				ハラタケ目	ヒラタケ科	ウスヒラタケ	<i>Pleurotus pulmonarius</i>		○		
149						トクイロヒラタケ	<i>Pleurotus djamor var. roseus</i>		○		
150						ヒラタケ	<i>Pleurotus ostreatus</i>		○		
151						ヌメリガサ科	アカヌマベニタケ	<i>Hygrocybe miniata</i>		○	
152							アケイロヌメリタケ	<i>Hygrocybe unguinosa</i>		○	
153							トガリツキミタケ	<i>Hygrocybe acutoconica f. japonica</i>		○	
154							ヒメダイダイタケ	<i>Hygrocybe aurantia</i>		○	
155							ベニヒガサ	<i>Hygrocybe cantharellus</i>		○	
156							キヤマタケ	<i>Hygrocybe ceracea</i>		○	
157							アカヤマタケ	<i>Hygrocybe conica</i>		○	
158							トガリベニヤマタケ	<i>Hygrocybe cuspidate</i>		○	
159							アキヤマタケ	<i>Hygrocybe flavescens</i>		○	
160							ナナイロヌメリタケ	<i>Hygrocybe laeta</i>		○	
161							ヌメリガサ属の一種 (和名なし)	<i>Hygrophorus nemoreus</i>		○	
162						キシメジ科	キシメジ科	キツネタケモドキ	<i>Laccaria ohaiensis</i>		○
163								カレバキツネタケ	<i>Laccaria vinaceoavellanea</i>		○
164								アオイヌシメジ	<i>Clitocybe odora</i>		○
165								ユキラッパタケ	<i>Clitocybe trogioides var. odorifera</i>		○
166								カヤタケ属の一種 1	<i>Clitocybe cf. albicans</i>		○
167								カヤタケ属の一種 2	<i>Clitocybe sp. 2</i>		○
168								ホンシメジ	<i>Omphalotus guepiniformis</i>		○
169								ツキヨタケ	<i>Lepista nuda</i>		○
170								サマツモドキ	<i>Tricholomopsis rutilans</i>		○
171								ササアカゲタケ	<i>Tricholomopsis sasae</i>		○
172								ムラサキシメジ	<i>Tricholoma flavovirens</i>		○
173								キシメジ	<i>Tricholoma matsutake</i>		○
174						ミネシメジ	<i>Tricholoma saponaceum</i>		○		
175						マツタケ	<i>Tricholoma ustale</i>		○		
176						キシメジ属の一種 (和名なし)	<i>Tricholoma inocybeoides</i>		○		
177						カキシメジ	<i>Armillariella mellea</i>		○		
178						ナラタケ	<i>Armillaria mellea subsp. Nipponica</i>		○		
179						ヤワナラタケ	<i>Armillaria gallica</i>		○		
180						ナラタケモドキ	<i>Armillariella tabescens</i>		○		

表 5.4-3(4) 文献及び事業者の調査で確認された大型菌類のリスト

No.	亜門名	目名	科名	和名	学名	文献調査	事業者の調査
181	(担子菌亜門)	(ハラタケ目)	(キシメジ科)	ヒメサカズキタケ	<i>Omphalina rustica</i>	1	H19
182				ヒナノヒガサ	<i>Gerronema fibula</i>		○
183				オリーブサカズキタケ	<i>Gerronema nemorale</i>		○
184				シロコケシジミガサ属の一種1	<i>Calyprella campanula</i>		○
185				シロコケシジミガサ属の一種2	<i>Calyprella</i> sp. 1		○
186				シロコケシジミガサ属の一種3	<i>Calyprella</i> sp. 2		○
187				ヒメキシメジ	<i>Callistosporium luteoolivaceum</i>		○
188				クリイロムクエタケ	<i>Macrocystidia cucumis</i>		○
189				アルレリア属の一種(和名なし)	<i>Arrhelia spathulata</i>		○
190				グロイオケフェラ属の一種	<i>Gloiocephala</i> sp.		○
191				コザラミノシメジ属の一種	<i>Melanoleuca</i> sp.		○
192				スギヒラタケ	<i>Pleurocybella porrigens</i>		○
193				モリノカレバタケ	<i>Gymnopus dryophilus</i>		○
194				モリノカレバタケ属(狭義)の一種1	<i>Gymnopus</i> sp. 1		○
195				モリノカレバタケ属(狭義)の一種2	<i>Gymnopus</i> sp. 2		○
196				モリノカレバタケ属(狭義)の一種3	<i>Gymnopus</i> sp. 3		○
197				モリノカレバタケ属(狭義)の一種4	<i>Gymnopus</i> sp. 4		○
198				サカズキホウライタケ属の一種(和名なし)	<i>Micromphale foetidum</i>		○
199				アミヒダタケ	<i>Campanella junghunii</i>		○
200				クログシジミタケ	<i>Respinatus trichotis</i>		○
201				ヒメムキタケ	<i>Hohenbuehelia reniformis</i>		○
202				ワサビタケ	<i>Panellus stypticus</i>		○
203				ニカワアナタケ	<i>Favolaschia nipponica</i>		○
204				エゾノピロードツエタケ	<i>Xerula hongoi</i>		○
205				マルミノツエタケ	<i>Xerula japonica</i>		○
206				ヒロヒダタケ	<i>Oudemansiella platyphylla</i>		○
207				スギエダタケ	<i>Strobilurus ohshimae</i>		○
208				スギノオチバタケ	<i>Marasmius capitatus</i>		○
209				アオキオチバタケ	<i>Marasmius accubae</i>		○
210				ヒメホウライタケ	<i>Marasmius graminum</i>		○
211				ハナオチバタケ	<i>Marasmius pulcherripes</i>		○
212				ミヤマオチバタケ	<i>Marasmius cohaelens</i>		○
213				スジオチバタケ	<i>Marasmius purpureostriatus</i>		○
214				ホウライタケ属の一種1	<i>Marasmius</i> sp. 1		○
215				ホウライタケ属の一種2	<i>Marasmius</i> sp. 2		○
216				ホウライタケ属の一種3	<i>Marasmius</i> sp. 3		○
217				ニセホウライタケ	<i>Crinipellis stipitaria</i>		○
218				シラウメタケモドキ	<i>Hemimycena delicatella</i>		○
219				シラウメタケモドキ属の一種	<i>Hemimycena</i> sp.		○
220				アクニオイタケ	<i>Mycena stipata</i>		○
221	ウブゲオチエダタケ	<i>Mycena brevicapillata</i>		○			
222	キュウバンタケ	<i>Mycena stylobates</i>		○			
223	チシオタケ	<i>Mycena haematopoda</i>		○			
224	ヌナワタケ	<i>Mycena torida</i>		○			
225	サクラタケ	<i>Mycena pura</i>		○			
226	シロサクラタケ	<i>Mycena subaquosa</i>		○			
227	クヌギタケ属の一種1	<i>Mycena</i> sp. 1		○			
228	クヌギタケ属の一種2	<i>Mycena</i> sp. 2		○			
229	クヌギタケ属の一種3	<i>Mycena</i> sp. 3		○			
230	クヌギタケ属の一種4	<i>Mycena</i> sp. 4		○			
231	ミヤマシメジ	<i>Hydropus nigrita</i>		○			
232	キヒダサカズキタケ	<i>Hydropus auratus</i>		○			
233	ヒメカバイロタケ	<i>Xeromphalina campanella</i>		○			
234	ヒメカバイロタケモドキ	<i>Xeromphalina curtipes</i>		○			
235	フジイロアマタケ	<i>Baeospora myriadophylla</i>		○			
236	タマシロオニタケ	<i>Amanita abrupta</i>		○			
237	ササクレシロオニタケ	<i>Amanita cokeri</i> f. <i>roseotincta</i>		○			
238	ヒメコナカブリツルタケ	<i>Amanita farinosa</i>		○			
239	クロタマゴテングタケ	<i>Amanita fuliginea</i>		○			
240	カバイロツルタケ	<i>Amanita fulva</i>		○			

表 5.4-3(5) 文献及び事業者の調査で確認された大型菌類のリスト

No.	亜門名	目名	科名	和名	学名	文献調査	事業者の調査	
241	(担子菌亜門)	(ハラタケ目)	(テングタケ科)	コテングタケモドキ	<i>Amanita pseudoporphyria</i>	1	H19	
242				ヘビキノコモドキ	<i>Amanita spissacea</i>		○	
243				タマゴタケモドキ (白色変種; 和名なし)	<i>Amanita subjunquillea</i> var. <i>alba</i>		○	
244				テングタケダマシ	<i>Amanita synopiramis</i>		○	
245				ツルタケ	<i>Amanita vaginata</i>		○	
246				ベニテングタケ	<i>Hypholoma fasciculare</i>		○	
247				チャヌメリカラカサタケ	<i>Limacella glioderma</i>		○	
248				ウラボニガサ科	ウラボニガサ	<i>Pluteus atricapillus</i>		○
249					ヒメベニヒダタケ	<i>Pluteus nanus</i>		○
250					カサヒダタケ	<i>Pluteus thomsonii</i>		○
251			ウラボニガサ属の一種 1		<i>Pluteus</i> sp. 1		○	
252			ウラボニガサ属の一種 2		<i>Pluteus</i> sp. 2		○	
253			ハラタケ科		キツネノカラカサ	<i>Lepiota cristata</i>		○
254					シロヒメカラカサタケ	<i>Lepiota cygnea</i>		○
255					クリイロカラカサタケ	<i>Lepiota castanea</i>		○
256				キツネノカラカサ属の一種 1	<i>Lepiota</i> sp. 1		○	
257				キツネノカラカサ属の一種 2	<i>Lepiota</i> sp. 2		○	
258				カブラマツタケ	<i>Squamanita umbonata</i>		○	
259				ヒトヨタケ科	イヌセンボンタケ	<i>Coprinus disseminatus</i>		○
260					ミヤマザラミノヒトヨタケ	<i>Coprinus insignis</i>		○
261			コツブヒメヒガサヒトヨタケ		<i>Coprinus leiocephalus</i>		○	
262			ヒメヒトヨタケ		<i>Coprinus friesii</i>		○	
263			ヒトヨタケ属の一種 1		<i>Coprinus</i> sp. 1		○	
264			ヒトヨタケ属の一種 2		<i>Coprinus</i> sp. 2		○	
265			ヒトヨタケ属の一種 3		<i>Coprinus</i> sp. 3		○	
266			イタチタケ		<i>Psathyrella candolliana</i>		○	
267			ムササビタケ		<i>Psathyrella piluliformis</i>		○	
268			ムジナタケ		<i>Psathyrella velutina</i>		○	
269			ナヨタケ属の一種		<i>Psathyrella</i> sp.		○	
270			オキナタケ科		コガサタケ	<i>Conocybe terera</i>		○
271				フミツキタケ属の一種 1	<i>Agrocybe</i> sp. 1		○	
272				フミツキタケ属の一種 2	<i>Agrocybe</i> sp. 2		○	
273			モエギタケ科	ニガクリタケ	<i>Hypholoma fasciculare</i>		○	
274				アシボソクリタケ	<i>Hypholoma marginatum</i>		○	
275				センボンイチメガサ	<i>Kuehneromyces mutabilis</i>		○	
276				クリタケ	<i>Naematoloma kardt</i>		○	
277				シビレタケ属の一種 1	<i>Psilocybe</i> sp. 1		○	
278				シビレタケ属の一種 2	<i>Psilocybe</i> sp. 2		○	
279				フウセンタケ科	コブアセタケ	<i>Inocybe nodulospora</i>		○
280					カパイロトマヤタケ	<i>Inocybe aureostipes</i>		○
281			アシボソトマヤタケ		<i>Inocybe calospora</i>		○	
282			オオミアセタケ		<i>Inocybe macrosperma</i>		○	
283			ミナカタトマヤタケ		<i>Inocybe glabrodisca</i>		○	
284			アシナガヌメリ		<i>Hebeloma spoliatum</i>		○	
285			ウスフジフウセンタケ		<i>Cortinarius alboviolaceus</i>		○	
286			カワムラアブラシメジ		<i>Cortinarius elatior</i> var. <i>albipes</i>		○	
287			モリノフジイロタケ		<i>Cortinarius nemorensis</i>		○	
288			ムラサキアブラシメジモドキ		<i>Cortinarius salor</i>		○	
289			ムラサキフウセンタケ		<i>Cortinarius violaceus</i>		○	
290			トガリニセフウセンタケ		<i>Cortinarius galeroideus</i>		○	
291			マルミノフウセンタケ		<i>Cortinarius anomalus</i>		○	
292			フウセンタケ属の一種		<i>Cortinarius</i> sp.		○	
293			ケコガサ		<i>Galerina vittaeformis</i>		○	
294			ヒナコガサ		<i>Galerina nana</i>		○	
295			ケコガサ属の一種 1		<i>Galerina</i> sp. 1		○	
296			ケコガサ属の一種 2		<i>Galerina</i> sp. 2		○	
297			チャツムタケ属の一種 1		<i>Gymnopilus</i> sp. 1		○	
298			チャツムタケ属の一種 2		<i>Gymnopilus</i> sp. 2		○	
299			チャツムタケ属の一種 3	<i>Gymnopilus</i> sp. 3		○		
300			チャヒラタケ科	クリゲノチャヒラタケ	<i>Crepidotus badiofloccosus</i>		○	

表 5.4-3(6) 文献及び事業者の調査で確認された大型菌類のリスト

No.	亜門名	目名	科名	和名	学名	文献調査	事業者の調査		
301	(担子菌亜門)	(ハラタケ目)	(チャヒラタケ科)	チャヒラタケ	<i>Crepidotus mollis</i>	1	H19		
302				ニセコナカブリ	<i>Crepidotus subsphaerosporus</i>		○		
303				ヒロハチャヒラタケ	<i>Crepidotus malachus</i>		○		
304				フジチャヒラタケ	<i>Crepidotus sulphurinus</i>		○		
305				コナカブリ	<i>Crepidotus variabilis</i>		○		
306				チャヒラタケ属の一種	<i>Crepidotus</i> sp.		○		
307				ピロードムクエタケ属の一種 (和名なし)	<i>Simocybe centunculus</i>		○		
308				メリスモデス属の一種 (和名なし)	<i>Merisomodes anomalus</i>		○		
309				イッポンシメジ科	ミノモミウラモドキ	<i>Entoloma conferendum</i>		○	
310					ウスキモミウラモドキ	<i>Entoloma omiense</i>		○	
311					コンイロイッポンシメジ	<i>Entoloma subnitidum</i> f. <i>cyanonigrum</i>		○	
312					アカイボカサタケ	<i>Entoloma quadratum</i>		○	
313			ヒダハタケ科	ニワタケ	<i>Paxillus atrotomentosus</i>		○		
314			オニイグチ科	オニイグチモドキ	<i>Strobilomyces confusus</i>		○		
315				トゲミノヒメイグチ	<i>Boletellus shichianus</i>		○		
316			イグチ科	キヒダタケ	<i>Phylloporus bellus</i>		○		
317				キイロイグチ	<i>Pulveroboletus ravenelii</i>		○		
318				イグチ属の一種	<i>Boletus</i> sp.		○		
319				ホオベニシロアシイグチ	<i>Tylopilus valens</i>		○		
320			ヤマイグチ	<i>Leccinum scabrum</i>		○			
321			ベニタケ科	アカバイロタケ	<i>Russula compacta</i>		○		
322				カワリハツ	<i>Russula cyanoxantha</i> var. <i>cyanoxantha</i>		○		
323				カワリハツの一変種 1 (和名なし)	<i>Russula cyanoxantha</i> var. <i>flavoviridis</i>		○		
324				カワリハツの一変種 2 (和名なし)	<i>Russula cyanoxantha</i> var. <i>variata</i>		○		
325				シロハツモドキ	<i>Russula japonica</i>		○		
326				クロハツモドキ	<i>Russula densifolia</i>		○		
327				オキナクサハツ	<i>Russula senecis</i>		○		
328				ヒビワレシロハツ	<i>Russula alboareolata</i>		○		
329				ウスムラサキハツ	<i>Russula lilacea</i>		○		
330				ドクベニダマシ	<i>Russula neocemetic</i>		○		
331				クサイロアカネタケ	<i>Russula olivacea</i>		○		
332				ケショウハツ	<i>Russula violeipes</i>		○		
333				ベニタケ属の一種 1 (和名なし)	<i>Russula heterophylla</i>		○		
334				ベニタケ属の一種 2 (和名なし)	<i>Russula inaemoena</i>		○		
335				ベニタケ属の一種 3 (ニセクロハツ近縁種)	<i>Russula</i> aff. <i>Subnigricans</i>		○		
336				ベニタケ属の一種 4	<i>Russula</i> sp. 4		○		
337				ベニタケ属の一種 5	<i>Russula</i> sp. 5		○		
338				ベニタケ属の一種 6	<i>Russula</i> sp. 6		○		
339				ケショウシロハツ	<i>Lactarius controversus</i>		○		
340				クロチチダマシ	<i>Lactarius gerardii</i>		○		
341				ヒロハチャチチタケ	<i>Lactarius ochrogalactus</i>		○		
342				ツチカブリ	<i>Lactarius piperatus</i>		○		
343				チョウジチチタケ	<i>Lactarius quietus</i>		○		
344				ヒロハウスズミチチタケ	<i>Lactarius subpinthogalus</i>		○		
345			チチタケ	<i>Lactarius volemus</i>		○			
346			ニセショウロ目	ツチグリ科	ツチグリ	<i>Astraeus hygrometricus</i>		○	
347			チャダイゴケ目	チャダイゴケ科	ツネノチャダイゴケ	<i>Crucibulum laeve</i>		○	
348					スジチャダイゴケ	<i>Cyathus striatus</i>		○	
349			ホコリタケ目	ヒメツチグリ科	シロツチガキ	<i>Geastrum fimbriatum</i>		○	
350					ヒナツチガキ	<i>Geastrum mirabile</i>		○	
351					エリマキツチガキ	<i>Geastrum triplex</i>		○	
352					ケフクロツチガキ	<i>Geastrum velutinum</i>		○	
353					アラゲホコリタケモドキ	<i>Lycoperdon pedicellatum</i>		○	
354					キツネノチャブクロ	<i>Lycoperdon perlatum</i>		○	
355					ヒメホコリタケ	<i>Vascellum pratense</i>		○	
356					スッポンタケ目	スッポンタケ科	コイヌノエフデ	<i>Jansia borneensis</i>	
357			キツネノエフデ	<i>Mutinus bambusinus</i>				○	
358			アカカゴタケ科	サンコタケ			<i>Pseudocolus schellenbergiae</i>		○
359			プロトファルス科	シラタマタケ			<i>Kobasasia nipponica</i>		○
360			ツノホコリ目	ツノホコリ科	ツノホコリ	<i>Ceratiomyxa fruticulosa</i> var. <i>fruticulosa</i>		○	

表 5.4-3(7) 文献及び事業者の調査で確認された大型菌類のリスト

No.	亜門名	目名	科名	和名	学名	文献調査	事業者の調査
						1	H19
361	(担子菌亜門)	(ツノホコリ目)	(ツノホコリ科)	タマツノホコリ	<i>Ceratomyxa fruticulosa</i> var. <i>porioides</i>		○
362		タマホコリ目	ドロホコリ科	マメホコリ (広義)	<i>Lycogala epidendrum</i>		○
合計 4綱20目64科362種						3科10種	64科354種

(出典)

文献1: 美山町史 上巻(美山町史編さん委員会 昭和59年9月)

(分類体系)

・原則として「原色日本新菌類図鑑Ⅰ(今関六也・本郷次雄 昭和62年6月)」及び「原色日本新菌類図鑑Ⅱ(今関六也・本郷次雄 平成元年5月)」に従ったが、同目録に記載のない種についてはその他の資料を用いて分類を行った。使用した目録を以下に示す。

1. 「Breitenbach, J. and F. Kränzlin, 1984. "Fungi of Switzerland 1 (Ascomycetes)". 310 pp., Verlag Mykologia, Lucerne.」
2. 「Breitenbach, J. and F. Kränzlin, 1986. "Fungi of Switzerland 2 (Non-gilled fungi)". 412 pp., Verlag Mykologia, Lucerne.」
3. 「Breitenbach, J. and F. Kränzlin, 1991. "Fungi of Switzerland 3 (Agarics 1st Part)". 361 pp., Edition Mykologia, Lucerne.」
4. 「Breitenbach, J. and F. Kränzlin, 1995. "Fungi of Switzerland 4 (Agarics 2nd Part)". 368 pp., Edition Mykologia, Lucerne.」
5. 「Breitenbach, J. and F. Kränzlin, 2000. "Fungi of Switzerland 5 (Agarics 3rd part)". 338 pp., Edition Mykologia, Lucerne.」
6. 「Denison, W. C., 1959. Some species of the genus *Scutellinia*. *Mycologia* 51: 605-635」
7. 「Dennis, R. W. G., 1957. Further notes on tropical American Xylariaceae. *Kew Bull.* 1957 (2) : 297-232 + 17 figs.」
8. 「Dennis, R. W. G., 1958. *Xylaria* versus *Hypoxylon* and *Xylospheera*. *Kew Bull.* 13 (1) : 101-106.」
9. 「Dennis, R. W. G., 1978. "British Ascomycetes (rev. & enl. ed)". 585 pp + 31 figs. J. Cramer, Fadz.」
10. 「Doi, Y., 1972. Revision of the Hypocreales with cultural observations IV. The genus *Hypocrea* and its allies in Japan (2). Enumeration of the species. *Bull. Natn. Sci. Mus.*, Tokyo, 15: 649-751.」
11. 「Dixon, J. R., 1974. *Chlorosplerium* and its segregates I. Introduction and the genus *Chlorosplenium*. *Mycotaxon* 1: 65-104.」
12. 「Hattori, T., 1999. *Phellinus setifer* sp. nov. and *P. acortex*, two noteworthy polypori from temperate areas of Japan, with notes on their allies. *Mycoscience* 40: 483-490.」
13. 「本郷次雄 (監修), 1994. "きのこ (山溪フィールドブックス10)". 383 pp., 山と溪谷社, 東京.」
14. 「Hosoya, T., 2001. *Hyaloscyphaceae* in Japn (5). Some *Lachnum*-like members. *Mycoscience* 42: 611-622.」
15. 「Hosoya, T., and Y. Otani, 1995. *Gelatinipulvinella astraeicola* gen. et sp. nov., a fungicolous discomycetes and its anamorph. *Mycologia* 87 : 689-696.」
16. 「池田良幸, 2005. "北陸のきのこ図鑑". 394 pp. +146 pls., 橋本確文堂, 金沢.」
17. 「今関六也・本郷次雄 (編著), 1987. "原色日本新菌類図鑑Ⅰ". 325 pp. +72 pls., 保育社, 大阪.」
18. 「今関六也・本郷次雄 (編著), 1989. "原色日本新菌類図鑑Ⅱ". 315 pp. +114 pls., 保育社, 大阪.」
19. 「Jordan, M., 1995. "The Encyclopedia of Fungi of Britain and Europe". 384 pp., David & Charles Ink, Brunel House.」
20. 「神奈川きのこの会・城川四郎, 1996. "猿の腰掛け類きのこ図鑑". 207 pp., 地球社, 東京.」
21. 「Kobayashi, T., 2002. The taxonomic studies of the genus *Inocybe*. *Beih. Nova Hedwigia* 124: 1-100 + 146 pls.」
22. 「Korf, R., 1960. *Jafnea*, a new genus of the *Pezizaceae*. *Nagaoa* 7 : 3-8.」
23. 「Maekawa, N., 1994. Taxonomic study of Japanese *Corticaceae* (Aphyllophorales) II. *Rept. Tottori Mycol. Inst.* (32): 1-123.」
24. 「大谷吉雄, 1990. 日本産盤菌綱雑記. 菌類研究報告28: 251-265.」
25. 「Pfister, D. H., 1973. The *Psilopezioid* fungi IV. The genus *Pachyella*. *Canad. J. Bot.* 51:2009-2023.」
26. 「Sarnari, M., 1998. *Monografia illustrata del Genere Russula in Europa. Tomo Primo.* 799 pp., A. M. B. Fondazione Centro Studi Mycologici, Trento.」
27. 「Sakuyama, T., 1993. Morphology of *Lophodermium* species causing needle cast of pine in Japan. *Trans. Mycol. Soc. Japan* 34: 433-447.」
28. 「Schumacher, T., 1990. The genus *Scutellinia*. *Opera Botanica* n° 101 : 1-107.」
29. 「Seaver, F. J., 1951. "The North American Cup-Fungi (Inoperculates)". Published by the author, New York.」
30. 「Singer, R., 1986. "The Agaricales in modern taxonomy (4th ed.)" 981 pp. + 88 pls. Koeltz Scientific Books, Koenigstein.」
31. 「Takahashi, H., 2000. Two new species of *Mycena* from eastern Honshu, Japan. *Mycoscience* 41: 545-549.」
32. 「Takahashi, H., 2002. Two new species and one new combination of *Agaricales* from Japan. *Mycoscience* 43: 397-403.」
33. 「幼菌の会 (編), 2001. "カラー版きのこ図鑑". 355 pp., 家の光協会, 東京.」

表 5.4-4 文献及び事業者の調査で確認された大型菌類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由			
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d
1	キシメジ科	マツタケ	●				準絶	
1科1種			1種	0種	0種	0種	1種	0種

注)1. 調査地域

文献調査: 自然的状況の調査範囲(図 4-1) (文献によっては市町村、地形、メッシュの単位で生育種が示されているものがあるため、調査範囲外の生育種が含まれている可能性がある。)

事業者の調査: 自然的状況の調査範囲(図 5.4-1~2)

2. 分類体系

原則として「日本のきのこ(山と溪谷社 昭和 63 年 11 月)」に従った。

3. 選定理由

a: 文化財保護法に基づき指定された天然記念物及び特別天然記念物、福井県文化財保護条例、福井市文化財保護条例、池田町文化財保護条例に基づき指定された天然記念物

b: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づき定められた国内希少野生動植物種及び緊急指定種

c: 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成 19 年 8 月)」掲載種

準絶: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

d: その他専門家により指摘された重要な種